

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

4月8日発行

第1号

文責 中野善文



## 山中創立40年目を素晴らしい年に!!

山形中学校長の中野（2年目）です。今年度も子どもたちの「知・徳・体」調和のとれた成長を願い、さまざまな視点から情報を発信して参りますので、どうぞご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

さて、今年は、本校創立から40年目の節目の年となります。その歴史と伝統を重んじつつ、**新たな歴史の1ページ**を刻んでいきたいと思えます。そこで、これまでの山形中の歴史を振り返るとともに、今後の取組についてご紹介したいと思えます。

### <学校沿革史から一部抜粋>

S58.4.1	山形中学校開校式、2・3年編入学式 校旗、校歌制定
S58.4.6	第1回入学式（55名入学）
S58.4.13	落成式・祝賀会
S58.5.17	PTA 設立総会
S58.9.19	開校記念大運動会
S59.10.31	第1回文化祭
S61.9.30	学校公開（村研究指定・教科指導）
S63.10.13	学校公開（道徳）
H 2. 4.1	小国中学校と統合（在校生180名）
H 4.10.16	山形村教育委員会指定学校公開
H11.10.14	学校公開「全へき研岩手大会分科会」
H 18.3.6	校名を久慈市立山形中学校に変更
H19.10.27	おらほーるで文化祭を開催
H21.4.1	霜畑中学校と統合（在校生46名）
H23.9. 21	久慈市教育委員会指定学校研究会実施
H27.10.1	第31回東北地区へき地教育研究大会・ 第58回岩手県小規模・複式学校教育研究大会久慈大会 授業公開
H29.11.16	「小さな親切運動」実行章受賞
H29.11.29	久慈地域生徒指導推進協議会より善行表彰
H31.2.13	「小さな親切運動」実行章授賞
R1.11.12	平成30年度・令和元年度久慈市教育委員会 指定学校公開研究会
R2.4.6	第38回入学式（11名入学）
R3.4.6	第39回入学式（17名入学）
R4.4.7	第40回入学式（10名入学）

### <学校の変遷および特長>

昭和58年、当時あった山形中学校と戸呂町・荷軽部・繫・日野沢・来内の6校が統合し、新生山形中学校が誕生しました。

昭和61年には、手彫の「六流大河」というパネルが制作され、今も体育館後方の壁面に掲示されています。

その後、小国中、そして霜畑中と統合し、現在の山形中学校となりました。

入学生の人数は、年々減少傾向にあります。これまでの八校の流れをしっかりと受け継ぎながら、生徒は「八流大河」の活動を行っていると自負しています。

山形中学校の宝は、何と言っても、「合唱」と「演劇」です。

平成19年からは、久慈市山村文化交流センター「おらほーる」で文化祭を実施し、地域の皆様にも好評を博しています。また、地域に元気を与える「山中ソーラン」も山中の誇る伝統芸能となっています。

### 学校経営の重点

### 生徒が「この学校に入ってよかったと思える学校」を目指します

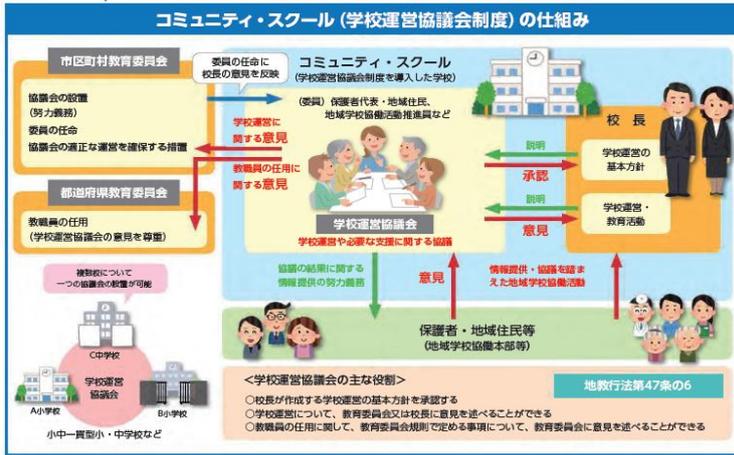
- 豊かな心ふれあいのある教室（「生徒指導」と「心の教育」→生徒相互、教師と生徒の心のふれあい）
- 確かな学力を保障する授業改善（「確かな学力育成プラン」「いわての授業づくり3つの視点」）
- 自己実現を目指す生徒の育成（「復興教育」「キャリア教育」「道徳教育」の充実→他者や社会との関わり）
- 「地域の学校」保護者・地域との協働による学校運営（学校運営協議会の設置と目指す子供像の共有）

# 誕生！「山形中学校運営協議会」R4.4.1

学校運営協議会って何だろう？

令和4年4月1日に「山形中学校運営協議会」を設置しました。「学校運営協議会ってなんだろう？」と思われる方もいらっしゃると思います。そこで、簡単にこの制度をお知らせします。

学校運営協議会制度は、「コミュニティスクール」とよばれ、法律（地教行法第47条の5）に基づいた制度です。目的は、「学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え『地域とともにある学校づくり』を進める」ことにあります。



今年度は、3回の開催予定です。  
 1回目（4月）  
 学校経営計画について  
 2回目（8月）  
 前期反省および後期の学校経営について  
 3回目（2月）  
 年間反省・学校関係者評価会議の様子については、校報「やまどり」でお知らせします。

今年度のまなびフェストの変更点や要点をお知らせいたします。

## 山中「まなびフェスト」★リニューアル！

令和4年度 久慈市立山形中学校「まなびフェスト」  
 ～白樺のように凛と美しく 闘牛のように勇ましく～



本校のキャッチフレーズを入れました。

目指す学校像の内容をわかりやすく表記しました。

「学校目標」をよりダイナミックに表記しました。また、この4つの旗を山形志旗と表現しました。

積極的に家庭学習に取り組めるように、帰りの短学活で、1日の学習を振り返り、家庭学習の内容をそれぞれに計画します。テスト前には、ノーマディアの取組を実施します。

目標数値は、昨年度と同じ数値です。年間を通して達成を目指します。

新体力テストの結果分析から得られた課題をもとに、合同トレーニングで基礎体力の向上を目指します。

学校のまなびフェストに合わせて、「わが家のまなびフェスト」の取組をよろしくお願ひします。

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

4月23日発行

第2号

文責 中野善文

## 寄贈 地元の後輩に思いを寄せて！

～ 将来に思いをはせ、スイッチが入る手助けに ～

先日、霜畑中学校の卒業生であるという方から電話をいただきました。内容は、「地元の後輩に本を寄贈したいが迷惑にならないか相談したい」というものでした。

電話の主は、霜畑出身の 打座 敦 さんという方で、早速お会いすることにしました。以前は銀行員だったそうですが、現在は起業して盛岡でマネジメントフォローの会社を経営しているそうです。地元の後輩に何かしてあげたいという思いから、ご自身が愛読している雑誌「致知」の話をまとめた「1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書」（致知出版社）を全校生徒分持参されました。この本の中には、昨年度の校長通信で紹介した花巻東高校野球部監督 佐々木 洋 氏の話も収録されていて、「中学生の多感な時期に将来のことを考え、どこかでスイッチが入る一助になれば」とおっしゃってくださいました。以下、この本の紹介をします。

### <ジャンル>

人間学・ビジネス書

### <構成>

1日1話読み切りで、題名の通り365話で構成されています。1話の文章量は、1000字程度。原稿用紙2枚半。

### <内容>

各分野で成功した一流の方々の方々のものの考え方やそれぞれの実践が描かれています。いろいろな職業について触れることができるとともに、その道で成功した人の考えや実践は非常にインパクトがあり参考になります。

### <難易度>

字が小さいので慣れるまで抵抗があるかもしれません。また、読者の興味に応じて理解が難しいものもあります。

稲盛和夫(京セラ名誉会長)  
知恵の蔵をひらく  
王 貞治(福岡ソフトバンクホークス球団会長)  
プロは絶対ミスをしてはいけない  
小田真弓(和歌山県 加賀屋女将)  
人を育てる十の心得  
小野二郎(すきやばし次郎主人)  
教えてもらったことは忘れる  
佐藤可士和(クリエイティブディレクター)  
ヒット商品を生み出す秘訣  
佐渡 裕(作家)  
奇跡を起こす方程式  
千 室室(茨城県千室町)  
破産者の公案  
張 富士夫(小豆島自動車相談役)  
現場には仕事と無駄の二つしかないと思え  
羽生善治(将棋棋士)  
自分の状態を測るリマス試験紙  
平尾誠二(神戸製鋼ラグビー部セナールマネージャー)  
公私混同が組織を強くする  
道場六三郎(銀座ろくろ主人)  
仕事にも人生にも締め切りがある

1日1話、  
読めば心が  
熱くなる  
365人の  
仕事の  
教科書

30万部突破!!  
読者の心を最も熱くした本  
2020年ブックログ年間ランキング 第1位  
読者が選ぶビジネス書  
グランプリ2022総合グランプリ 第1位

この度の後輩に対するご厚意をありがたく頂戴し、生徒全員に本書を配付します。朝読書の時間に1日1ページずつ順番に読むのもいいでしょうし、自分の興味のある人物の話から読むのもいいでしょう。また、難しいと感じた人は、まずは家族の方に読んでもらって話を聞くのも良いと思います。

この本の内容が心に響くタイミングはそれぞれ異なると思います。未来の自分のためにいつでも手に届くところに置いてはどうでしょう。わたし（中野）にとっては、自分を振り返るとともに経営の在り方について考える機会となりました。また、4月全校朝会の講話「熱くなれるもの」とちょうど重なる内容の本でしたので、講話の最後に紹介させていただきました。

## 遠い昔の記憶 熱くなれるものに出会えた喜び

校長講話（4月20日 全校朝会にて）

始業式等で、今年度は創立40年目の節目の年と話をしましたが、40年前というと皆さんの保護者は何歳ぐらいだったでしょうか。校長先生は、当時は高校生だったと懐かしみながら、さらに遡って自分の中学校時代のことを振り返ってみました。きっと多くの方の人生において、この中学校時代は大きなウエイトを占めるのではないのでしょうか。

中学校時代の自分に問いかけてみました。中学3年間に点数をつけるとしたら何点だろう？おそらく、80点くらいだと思います。

皆さんの参考になるかわかりませんが、校長先生の中学校時代のことを話します。

中学時代のわたしは、他の人にどう映っていたかわかりませんが、馬鹿がつくほどサッカーに熱中していました。1, 2年生の頃は、先生方から「サッカー以外も頑張ったらどうだ」と言われたものです。サッカーで進学したいと思っていたので、常にサッカーのことばかり考えていました。今のみなさんと違って、専門の指導者がいなかったのも、技術的な内容は、サッカーダイジェスト、サッカーマガジンという月刊誌を買って、テクニックや練習方法を自分で調べました。部活動の時間は、今の山形中くらいだったと思います。部活が終わるといったん家に帰ってマイボールをもって練習に行ったり、大人の久慈クラブの練習に入れてもらったり、シーズンオフは、毎日3キロ走りました。2年生の秋には、朝6時半に久慈海岸に自転車で行って、砂浜でランニングした時期もあります。ただ、頑張りすぎて腰痛を抱えてしまったのは失敗でした。筋肉もつけすぎて、そのために身長が止まってしまったかもしれません。もし、あと10センチ身長が高かったら女子に人気があったかもしれません。

結果はというと、県大会2回戦で惜敗。自分自身も腰痛を抱え、持つてる力をだしきることではできませんでした。同時に自分の実力を知ることとなり、結局、サッカーでの進学はあきらめました。でも、あまり悔しいという気持ちはありませんでした。それまでの2年半の取組は、今の自分の基礎を作ったと思いますし、自分でもよくやったと思います。

何を皆さんに伝えたいかという、まず、何か熱くなれるもの、夢中になれるものに出会えることは素晴らしいことであり、ぜひ皆さんにもそういうものとの出会いがあることを願っています。

そして、目標を成し遂げるために、誰かにやらされるのではなく、自分で時間を工夫して調べたり、練習したり、解決に向けて取組むことは、必ず将来役に立ちます。

わたしにとっては、それがたまたまサッカーでしたが、音楽や芸術を研究するのもいいでしょうし、将来の夢に向かって取組めたら最高だと思います。ただし、勉強は毎日コツコツとやっておいたほうがいいです。わたしのように後で困らないためにも。

サッカーを引退した後の6か月、わたしは猛勉強を始めます。平日4時間、休日9時間、足りない学力を補うため、目標の高校を目指して。どうして、そんなに頑張れたのか？それは、次の目標を見つけたから。

続きの話は、またいつかお話ししたいと思います。

最後に、本の紹介をします。先日、皆さんの先輩という方から本を寄贈していただきました。題名は、「1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書」です。(表面の通り)



# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

5月26日発行

第3号

文責 中野善文



**今、山形町が熱い！  
山形町の魅力再発見！**



5月になって、この山形町の魅力がどんどん発信されてきているように感じられます。

4月末に平庭山荘に、仙台市立中山中学校の生徒がたくさん来ていました。5月17日の岩手日報では、仙台市立七郷中の生徒が内間木川でシャワークライミングを楽しむ様子が1面で紹介されました。また、地域欄(20)面では、「平庭闘牛大会わかば場所」の紹介があり、過去最高の900人が来場したと報じていました。間もなく「平庭高原つつじまつり」が開催されます。白樺とつつじのコラボレーションが、きっと多くの人を魅了することでしょう。

現在、コロナ禍で様々な制限が課せられている中で、改めて自然豊かな地域が見直されています。本校も、山形町が元気で魅力ある町になるように応援していきたいと考えています。

自分の故郷の  
ことをもっと  
知りたい！

## 地域学スタート

10年後、  
20年後の  
山形町は？

今年度は、「総合的な学習の時間」に「地域学」の時間を設けました。総合的な学習の時間では、「実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。」「探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。」ことが目標に掲げられています。

本校では、山形町の成り立ち(過去)や生活・文化・産業等の現状(現在)を調べる中で、問いや課題を見だし、10年後・20年後(未来)の山形町がどうあれば良いのかを、自分の未来と重ねながら考えていきます。

また、探求的な学習においては、各教科で身につけた力を活用しながら、課題を解決する力をより高めていきます。

この学習を通して、生徒一人ひとりの生きる力を育むとともに、故郷を愛する心を育み、この山形町が元気でさらに魅力的な町に発展することを願っています。

<各学年の取組>

学年	1 学年	2 学年	3 学年
課題	①故郷・山形 【山形の過去を知る】	①故郷・山形 【山形の現在を見つめる】	①故郷・山形 【山形の未来を描く】

なお、本学習においては、山形総合支所や各関係団体の皆様のお力をお借りしながら進めていくこととしておりますが、ご家庭においても貴重な資料やお話し等ございましたら情報を提供していただきますようお願いいたします。

山形町の人口と産業(国勢調査)

項目	平成22年	平成12年
人口	2,804人	3,382人
15歳未満	10.3%	13.5%
15～64歳	52.8%	57.6%
65歳以上	36.9%	29.0%
面積	295.49Km <sup>2</sup>	295.49Km <sup>2</sup>
産業就業者	1,313人	1,716人
第1次産業	39.2%	38.1%
第2次産業	22.2%	27.8%
第3次産業	38.5%	34.1%

# 学校&地域 相互の発展を目指して ～第1回学校運営協議会を開催しました！～

本通信・第1号（4月8日発行）でもお知らせしました学校運営協議会の第1回目の会議を4月26日（火）に開催しました。市内小中学校において、単独校として本協議会をスタートしたのは本校のみで、まさに先行スタートとなりました。

本協議会委員の12名の皆様をご紹介します。

第1回目の内容は、「本協議会の役割」ならびに、「学校経営方針の承認」、「情報交換」でした。昨年度の学校評価をもとに、今年度の学校経営方針をお伝えしました。

<学校運営協議会委員(敬称略)50音順>

No.	委員氏名	役職名
1	岩 脇 愛	学校地域支援 コーディネーター
2	小笠原 牧 子	元山形小学校長 前山形中学校評議員
3	上 有 谷 満	山形総合支所長
4	木 地 谷 淳	P T A会長
5	久 保 司	元山形総合支所長 前山形中学校評議員
6	小 田 一	山形福祉会 施設長
7	小 渡 正 利	川井自治会長
8	佐々木 ナミ子	元山形小学校長
9	下 館 満 吉	山形地区民生委員 会長
10	高屋敷 英 則	やまがた文化・ スポーツNPO 理事長
11	橋 本 實	やまがた地域振興協議会 会長
12	三 浦 修 悦	山形地区防犯協会 会長

令和4年度山形中学校 学校経営方針

**「知」の取組について(学校経営P2)**

- ・「確かな学力育成プラン」本校独自
- ・学力調査問題を全員で解く⇒分析⇒改善
- ・わかる⇒できる授業(年1回の提案授業)
- ・ICTの活用(情報選択・整理・分類)  
⇒思考の深まり
- ・家庭学習の充実(自主学習+教科宿題)
- ・ノーマディア週間(小中連携・テスト前)

**「徳」の取組について(学校経営P3)**

- ・生徒理解⇒共通理解 ※教育相談の充実
- ・校内外の明るいあいさつ 褒めて伸ばす
- ・いじめ防止「NAR運動」(1人も1人にしない)
- ・特別の教科「道徳」を中心とした道徳教育の充実
- ・復興教育の充実(いきる・かかわる・そなえる)
- ・チームによる不適應生徒への対応

**「体」の取組について(学校経営P3→4)**

- ・規則正しい生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)
- ・部活動の充実⇒心身(気力・体力)の向上
- ・新体力テストの結果分析⇒個別の助言
- ・合同トレーニング⇒基礎体力の向上
- ・食育教育の充実⇒栄養教諭との連携
- ・危機管理マニュアル⇒未然防止・即時的確対応

**「地域とともにある学校」(学校経営P4)**

地域に飛び出せ!

ガタゴン祭り  
愛山荘訪問  
山形地区総合文化祭  
白樺植樹

⇔

山中ソーラン  
合唱  
演劇  
応援

委員の皆様から、学校に対する大きな期待と激励をいただきました。山形町と山形中の更なる発展を目指して、本協議会の活動を進めていきます。地域・保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

## <委員の皆様からいただいたご意見等>

- ・生徒数の減少はできるだけ防ぎたい。昔のように、部活動での活躍を期待。
- ・子どもたちには、好きなことを頑張ってもらいたい。そのために協力していきたい。
- ・地域学習はとても良い。地域を知らない大人も多い。地域のいろいろなところに行ってみてほしい。
- ・地域学習やキャリア教育には、地域の支援が必要なので、協力をお願いしたい。
- ・地域の元気がなくなってきている。これからの新しい山形を、保護者達が考えていったほうが良い。
- ・学校は地域の応援団という考えが素晴らしい。ぜひ、地域も学校の応援団となって頑張ってもらいたい。

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

6月30日発行

第4号

文責 中野善文

## 流した汗と涙を今後の誇りに！

～部活動で学んだことを今後にかかす～

地区中総体が終わりました。全校38人が心をつなげて臨んだ大会でしたが、とりわけ3年生にとっては、特別なものだったにちがいません。すべての競技を応援することは叶いませんでしたが、学校に戻ってきた生徒一人ひとりの顔を見ると、晴れ晴れとした顔や悔しさにゆがんだ顔等、それぞれに異なる思いがあることが伝わってきました。結果に満足できない生徒もいると思いますが、3年生が少ない中で、本大会を最後まであきらめずに粘り強く戦い抜いた山中生をとて誇りに思います。ぜひ、この経験を生かしてこれからの人生を粘り強く切り拓いてほしいと思います。



仲間との絆を一生の宝物に！



歴代の卒業文集を開くと、多くの生徒が中総体のことを思い出として綴っています。

1年生の頃には、基礎練習に励み技術を磨くとともに、指導してくださった先輩方のために頑張る。2年生になると、1年生に指導しながら先輩方を支える。そして、自分たちが主役の新人大会に臨む。3年生になって、最後の大会に向けた目標を定め、ひたむきに取り組むその後姿で下級生を導き、悔いを残さぬよう仲間とともに全力で挑む。結果についての感想は、それぞれに異なりますが、結果以上に、3年間で学んだ多くのことに触れている生徒が多いです。

それぞれの異なる立ち位置（学年）において、練習に励む中で、「自主性」や「責任感」を養うとともに、異なる学年による集団活動の中で、先輩後輩の縦のつながりや連帯感（チームワーク）を学んだ等々。改めて、部活動がもつその意義と価値の高さを感じます。

部活動方針に示したように、部活動は強制するものではありませんが、部活動に実際に参加することで得られた貴重な経験や学びを、上級生から下級生に伝えながら、今後も自主的な部活動が運営されることを願っています。

3年生の皆さん、本当にお疲れ様でした。そして、よく頑張りました。これまでの頑張りを誇りに変えて、次の目標に向かって進んでほしいと思います。また、下級生の皆さんには、3年生の意思を受け継ぎながらも自分たちの目標に向かって進んでほしいと思います。

# 山形町の未来を考える

～ 【3年総合・地域学】  【やまがたビジョン】 ～

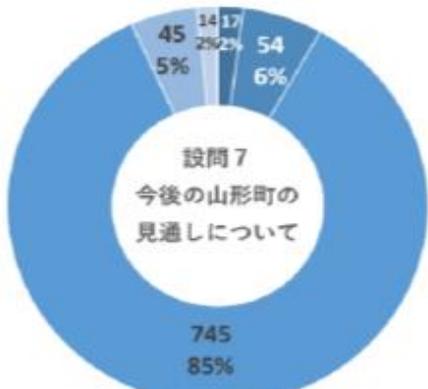
6月3日（金）に山形総合支所ふるさと振興課の二橋係長、近藤主任、久慈市役所地域づくり振興課の中村係長ほか2名の方にお越しいただき、3年生の総合的な学習「地域学」を実施しました。内容は、「やまがたビジョン」のアンケート結果等から山形町の実態や住民の意識について学び、山形町の未来をより良くするにはどうしたらよいかを考える1回目でした。

以前から、わたし（中野）が集合学習で訪問していたところと比べて町全体の元気がないと感じていましたが、今まさに山形町の未来について考えなければならない時期がきていたようです。そうであるならば、「やまがたビジョン」に中学生の声を反映すべきではないのか、中学生が考えることにこそ大きな価値があるという意見が会議で出され、今回の授業を実施することとなりました。そのときの、説明資料の一部と授業の様子を紹介します。

## やまがたビジョンとは？

⇒「将来、山形町がこんなまちになってほしいな」という理想の姿と、それを実現するために山形町に住む人たちがどんなことができるか、どんなことをしたら良いかをまとめたもの  
⇒山形町民がワクワクしながら向かっていける目標・ゴール

## 設問7 今後の山形町の見通しについて 山形町の多くの人が悲観的な回答を

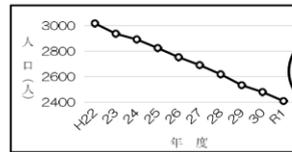


- 今よりは発展していくと思う
- なんとか現状維持でいけると思う
- 人口減少と少子高齢化が進み、厳しくなると思う
- 分からない
- 未回答

## どうして「やまがたビジョン」をつくるの？

～ あなたの声、未来に繋がります ～

山形中学校のみなさん、ご入学・ご進級おめでとうございます。  
さて、突然ですが、みなさんが住む山形町では年々人口が減ってきていること、知っていますか？下のグラフ※のとおり、今後も人口減少は進行することが予想されるため、みなさんが大人になる頃には今よりもっと多くの人がいなくなっているかもしれません！



H22年度 3,017人  
↓  
R1年度 2,409人  
9年間で  
600人超の減!!



※久慈市住民基本台帳データより、山形町における各年度3月末時点での数値にて作成  
H24～外国人を含んだデータとなっております

そうならないためには、「なぜ人が減ってしまうのか？」「どうしたら今よりも良い町になるのか？」を山形町のみなさんで考えていかなければなりません。

そこで、「今！みなさんが思う山形町」について、教えていただき、まちづくりのための材料にしたいと思います。好きなどころはもっと良くして、不便なところは工夫して、今よりもちょっと素敵なまちになるよう、ご協力をお願いいたします。



山形町のよい  
ところをたくさん  
← あげてみよう

山形町がこんな  
町になれば  
いいなあ →



昨年度の山形中生のアンケート結果を見ましたが、「ふるさとに対する愛着」や「ふるさとを大切に思う」気持ちが高く、「山形町の地域振興活動に参加したい」と回答している生徒がほとんど（93%）でした。これからの山形町はどうあれば良いか、未来を担う中学生に柔軟かつ自由な発想で、いろいろなアイデアを出してほしいと思います。そして、山形町に、大人の方々にたくさんの刺激を与え、地域と学校がともに発展していくことを期待しています。

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

7月25日発行

第5号

文責 中野善文

## 73日間の充実した学習の日々

### ～生徒アンケートから1学期を振り返る～

4月7日にスタートした1学期、新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行いながら、73日間の授業日を予定通り無事に終えることができました。

入学式および始業式で、生徒のみなさんには、「本校学校教育目標を指し示す4つの旗を高く掲げよう」と呼びかけましたが、様々な場面で意識して頑張った様子が1学期アンケートからも伝わってきました。

#### 【自主】主体的に学び、考え、行動する生徒

多くの生徒が、「学習や学校行事に主体的に取り組んだ」と回答しています。授業を参観し、どの教科においても、課題解決に向けて粘り強く取り組む生徒の姿が印象的でした。また、積極的にグループで話し合い、自分の考えを広げ深めている様子が伝わってきました。

今年からスタートした「地域学」（総合的な学習の時間）でも、各教科で身につけた力をもとに、課題解決に向けた学習を行っています。故郷の魅力と課題を再発見し、未来の山形町をそれぞれに思い描くことを期待しています。

体育祭では、3年生を中心として一致団結して取り組む姿、自分の役割を十分に理解し、「自ら気づき、考え行動する姿」が印象的でした。当日参観された学校運営協議会の皆様からも、「中学生のはつらつとした姿から元気をもらった」と高い評価をいただきました。

その他、アンケート結果から見えてきたこととして、授業中の集中力は、学年が上がるにつれ「よくあてはまる・あてはまる」が増えています。一方で、家庭学習は学年が上がるにつれて「よくあてはまる」が少なくなっています。これは、目標時間の長さも影響していると考えられますが、夏休みを含めて、それぞれの進路に向けて頑張ってもらいたいと思います。

#### 【創造】生活を見つめ、協力して新しい文化をつくる生徒

「みんなと協力して、ソーランや合唱の伝統をつないだ」、「体育祭では改善意見を出し合いより良い活動とした」という回答が多かったです。コロナウィズという言葉がありますが、これまでの経験を生かしコロナ禍においてどう工夫するか、今後もその力が試されそうです。

地区合唱交流会は残念ながら中止になりましたが、全日本合唱コンクールに向けて引き続き山中の宝である合唱を大事にしてほしいと思います。また、山中ソーランの出演依頼も複数届いています。ぜひ、地域を盛り上げるためにも多くの生徒の参加を期待しています。

反省として、「生活面での取組や改善が足りなかった」と感じている生徒も多くいます。

2学期は、生徒会執行部を中心とした専門委員会の活動に期待したいと思います。

#### 【躍進】気力・体力を鍛え、ともに高め合う生徒

多くの生徒が、「中総体や各種大会に向けて、共に励まし合い、気力・体力を高め合った」と回答しています。また、「陸上練習や駅伝練習に参加して、体力の向上に努めた」という生徒も昨年度に比べて増えています。

校長のわたしは、全校生徒が各部に所属し、それぞれの目標に向かって頑張っている姿を

応援するのが大好きです。当然、運動が苦手な人もいれば、その競技にどこまで打ち込めるかは個々の状況によって異なると思います。しかし、チーム全員で決めた目標に向かってチームが一丸となって心を熱くして取り組める部活動は、人間形成に大きな影響を与え、中学生を大きく成長させてくれるものだと考えています。結果も大事ですが、人数が少なくとも力を合わせ挑みつつける中で、沢山のことを経験し学んでほしいと考えています。

これから、地区駅伝競走大会、地区陸上競技大会、地区新人大会と続きますが、選手も応援団もみんなで心を合わせて立ち向かってほしいと思っています。

### 【敬愛】 自他を敬愛し、思いやりと感謝の心を持つ生徒

多くの生徒が、「思いやりと感謝の気持ちをもって人と接することができた」と回答しています。中でも、「先輩に対する感謝の念と礼儀を大事にした」と回答したのは1年生です。他にも、「友達の気持ちを考えた行動」、「地域の人との関わりの大切さ」を挙げた生徒もいました。他者への思いやりにあふれる本校生徒に、ぜひお願いしたいのは、「自分に対する思いやり」です。「自分に良いところがある」という設問に対して否定的な回答をしている生徒の記述を見ると、全員が「相手の立場を考えて行動した」「相手に対する思いやりの気持ちを大事にした」と回答しています。もしかすると、優しい心の持ち主ほど、自分を過小評価するのかもしれませんが、もっと自分を認めて自信につなげてほしいと願っています。

### 【地域学】

STEP1 過去

→STEP2 現在

山形を見つめ考える

【山形の現在を見つめる】をテーマに、2年生は、観光資源として盛り上がりを見せている闘牛について学習をしました。現地に出向いて学ぶことは多く、畜産酪農家の下館進様から短角牛のルーツから、闘牛の選抜、飼育について詳しく説明していただきました。真剣に説明を聞き、浮かんできた疑問を積極的に質問する姿に、深い学びを感じました。



闘牛会場に移動し、この闘牛の歴史と深く、様々な障害を乗り越えながら至っていること、オーナーや勢子の方々の方々の頑張りの上に、今の盛り上がりがあることを知りました。

「まめぶ」に続き、「無形文化財」登録を目指す取組に、中学生としてどのような関りがもてるのか、どのようにこの闘牛を盛り上げていけるのか、中学生の視点でさまざまな考え具体的な行動に移すことを期待しています。

【山形の過去を見つめる】をテーマに、1年生は、8つの旧小学校区を分担し、書籍やインターネットを活用しながら、各小学校の歴史、施設や特産品など、様々な観点について調べました。調べた内容をタブレットに整理・分類し、それぞれに発表しました。



意外なことに、自分が住んでいる地区でも初めて知ることが多く、貴重な学びの機会となったようです。実は、学校運営協議会でも、「山形のことを知らない大人も増えている」という話題が出ています。

学習のまとめとして、改めて山形町の良い点と課題点を整理し、これからの山形町を考えることとしています。

過去から何を学び、未来にどうつなげるのか。そのために現状をより深く探る。

3年間を通して、未来の山形町につながる深い学びになることを期待しています。

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

8月19日発行

第6号

文責 中野善文

## 躍進&創造の2学期を目指して！

### ～学校評価アンケートから2学期を考える～

23日間の夏休みを終え、いよいよ2学期がスタートしました。暑い中、陸上練習・合唱練習・部活動に一生懸命取り組み、たくましく成長した生徒の皆さんが、これからどんな活躍を繰り広げるのが非常に楽しみです。2学期は、文化祭・合唱発表会の文化的行事の他に、各学年の行事（修学旅行・宿泊研修・校外学習）等、非常に盛りだくさんです。これらの学習を通して未来の自分を見つめ、将来の夢を見つけるきっかけになればと願っています。

また、更なる生徒の成長を目指し、1学期の学校評価をもとに2学期の重点及び課題意識をもたせながら指導しますので、保護者の皆様にもご理解とご協力をお願いします。

### <1学期「まなびフェスト重点項目」&「学校評価」>

項目	昨年度		1学期		生徒昨年度比
	保護者	生徒	保護者	生徒	
1 学習に集中して取り組む生徒（80%以上）	81.4%	92.8%	62.2%	92.1%	-0.7%
2 家庭学習に積極的に取り組む生徒（1年生70分 2年生80分 3年生90分 80%以上）	62.6%	90.4%	68.4%	92.1%	1.7%
3 学校生活が楽しいと思う生徒（80%以上）	79.1%	76.2%	81.6%	76.3%	0.1%
4 明るいあいさつができる生徒（80%以上）	86.0%	88.1%	92.1%	97.4%	9.3%
5 規則正しい生活をする生徒（80%以上）	81.4%	81.0%	81.6%	89.5%	8.5%
6 部活動に積極的に取り組む生徒（90%以上）	83.7%	95.3%	76.3%	86.8%	-8.5%
1 自分にはよいところがある	81.4%	57.1%	86.8%	73.7%	16.6%
2 将来の夢（目標）をもっている	62.8%	73.8%	71.1%	71.1%	-2.7%
3 学校行事に積極的に参加している	93.0%	97.6%	92.1%	92.1%	-5.5%
4 自分の考えをしっかりと表現できる	81.4%	85.7%	76.3%	76.3%	-9.4%
5 相手の立場や気持ちを理解した言動ができる	74.6%	88.1%	84.2%	92.1%	4.0%
6 学校の様子をよく話す	81.4%	83.3%	92.1%	84.2%	0.9%
7 先生に相談しやすい	69.8%	71.4%	86.8%	73.7%	2.3%
8 情報発信を適切に行っている	95.3%	90.5%	92.1%	92.1%	1.6%
9 保護者と意思疎通を行っている	88.3%	90.4%	89.5%	100%	9.6%
10 いじめ防止に取り組んでいる	90.5%	92.9%	97.3%	97.4%	4.5%

重点目標 80%を下回った項目

県の目標値を下回った項目

昨年度比 8%上回った項目

昨年度比 8%下回った項目

この評価は、肯定的評価（4段階評価の4と3）の数値を基に作成したものです。昨年度との比較をもとに、1学期の学校経営について振り返ってみたいと思います。

## 1 重点項目について

- ・【項目1】、【項目2】 授業中の集中力は素晴らしいです。家庭学習については、生徒評価は昨年度並に良好な結果と言えますが、保護者の評価と大きな隔たりがあります。メディア利用調査では、平日2時間以上の利用生徒が3分の1近くいることから、その影響が考えられます。また、スポ少の夜練習があるときは、図書室等で家庭学習及び宿題等を終わらせてから活動に入っていました。2学期も引き続き**部活動と学習との両立**を果たせるように支援していきます。
- ・【項目3】 昨年度に引き続き保護者・生徒とも肯定的回答が増えているものの80%を下回っています。個々の不安や悩みに寄り添えるように、アンケートや教育相談の充実に引き続き取り組んでいきます。また、現代社会では、**他者とのコミュニケーション能力の向上**が求められています。つきましては、自分と考えが異なったり相性が合わないと感じる友だちとでも良好な関係を築けるように学校行事や特別の教科道徳を通じながら指導していきたいと思えます。
- ・【項目4】 保護者・生徒とも高い評価をしています。普段から意識して頑張っている成果です。教職員が更に目指しているのが、**一人でも、校外でも、積極的にあいさつできる生徒**です。あいさつは**人間関係の潤滑油**、社会に出たときに大切であることも教えていきたいと思えます。
- ・【項目5】 保護者・生徒とも目標値を超えており、良好な家庭生活が送られていることを嬉しく思えます。「**早寝・早起き・朝ごはん**」を筆頭に、PTA連合会及び家庭のルールを守りながら今後も規則正しい生活を送ってほしいと思えます。
- ・【項目6】 目標値をわずかながら下回りました。3年生が引退し、新体制での活動にも慣れ、大きな声ではつらつとしたプレーが見られるようになってきました。新人大会に向けてチームが**一丸となり、覇気のあるチーム作り**を目指してほしいと各部長に伝えました。

## 2 重点項目以外について

- ・【項目1】 保護者・生徒とも評価が高くなりました。校長通信NO.5でもお伝えしたように、否定的評価をしている生徒の多くが、「他者への思いやりに優れている生徒」と捉えています。今後も「**ほめる**」「**認める**」ことを大切にした指導に努めていきます。
- ・【項目2】 1年生：40%、2年生：76%、3年生：90%と学年が上がるにつれて評価が高くなっています。本校では、将来の生き方について、キャリアパスポートを活用して計画的に学習していますが、1年生でも**将来の夢を自由に語り合う**ような時間をもちたいと考えます。
- ・【項目3】 概ね達成したと考えます。**コロナ禍の経験を生かし**、体育祭は生徒の改善意見をもとに工夫されたものとなりました。2学期の文化祭についても、**昨年の経験を生かして、自主・創造・躍進・敬愛の4つの旗を高く掲げて全校で取り組んでいきたい**と思えます。
- ・【項目4】 保護者・生徒とも評価が下がっています。今年度は、授業に「**対話**」を積極的に取り入れ、自分の考えを**根拠を挙げて説明する機会**を増やしています。大人でも難しいことですが、これからの時代において、特に必要とされる力です。日々の授業を通して、個々の表現する力を高めていけるように、今後も個別の支援を丁寧に行っていきたいと思えます。
- ・【項目5】 保護者・生徒とも評価が上がっています。「**道徳**」や日々の生活、NAR運動を通して着実に仲間を思いやる気持ちが育っていると思えます。今後も**個性の尊重、多様性と調和等、時代の要請に応える指導**を大切にしていきたいと考えています。
- ・【項目6】 昨年度同様に高い数値です。中学生になると学校のことを家庭で話さなくなる傾向がありますが、家庭教育が充実していることの表れであると思えます。
- ・【項目7】 生徒以上に保護者の評価が高くなりました。日頃から先生方は、保護者の相談に**丁寧に対応**しています。また、生徒の悩みにも教育相談を実施しながら**寄り添う指導**を大切にしています。今後も、**保護者・生徒からの信頼を得らえる教職員**を目指していきます。

- ・【項目 8】 昨年度以上に、学校通信「やまどり」を発行し、学校の様子を伝えています。校長通信も併せて学校HPにアップしていますので、見落としのある場合はぜひご覧ください。
- ・【項目 9】 については、昨年同様高い数値となっています。生徒の捉えが100%というのも嬉しい限りです。今後も保護者の皆様との意思疎通を大事にしていきたいと思えます。
- ・【項目 10】 これまでの取組を評価していただけていることを嬉しく思います。しかし、否定的な回答をしている保護者・生徒がいることを重く受け止めます。引き続き生徒会による「NAR運動」で未然防止に努めつつも、いじめは、いつでも・どこでも起こりうるという認識の下、アンテナを高くして学校・家庭・地域とが連携して取り組めるよう努めていきます。

順位	指導項目	人	%	『学校で力を入れて指導してほしいこと』 保護者の皆様に、「学校で力を入れて指導してほしいこと」を18項目から3つ選んでいただきました。合計結果を上位から順に、左の表にまとめました。 学校では、いずれの項目についても年間指導計画に沿って指導を進めていますが、保護者の皆様の期待に応えられるように努めていきます。 16番目の「学校行事」「生徒会活動」「復興教育」の結果「0%」については、学校の指導が十分に行われているという評価の表れと捉えたいですが、引き続き、本校の特色ある活動を全校で築いていきたいと考えています。 夏休み中に、山形町に「大雨警報」および「土砂災害警報」が発令されました。改めて、自然災害への「知識・理解」および「対応の仕方」について、「いわての復興教育【そなえる】」の重点事項として指導していきます。
1	学習指導	21	55%	
2	進路指導	11	29%	
2	部活動指導	11	29%	
4	情報教育	8	21%	
5	友達・仲間づくり	6	16%	
6	道徳の指導	5	13%	
7	性指導	4	11%	
7	読書指導	4	11%	
9	健康・安全	3	8%	
9	国際理解教育	3	8%	
9	地区行事	3	8%	
12	環境教育	1	3%	
12	教育相談	1	3%	
12	食育	1	3%	
12	非行防止	1	3%	
16	学校行事	0	0%	
16	生徒会活動	0	0%	
16	復興教育	0	0%	

【自由記述から】 日頃の指導に対する感謝の気持ちを書いて下さった方々がいらっしゃいます。また、指導の見直しとなる貴重なご意見も頂戴しました。その内容を、回答と併せて紹介します。

「勉強が苦手です。取り組み方など、指導してもらいたいです」 学校としての課題の他に、自主的に取り組む学習を帰りの短学活で確認し、個別のアドバイスを丁寧に行っていきます。

「部活動について、心残りです」 子どもたちの気持ちや個々の特性を大事にしながら指導に努めてきましたが、ご批判については真摯に受け止めます。引き続き、目標に向かってチーム一丸となって互いを高め合い達成感を得られるように、部活動延長も実施しながら指導に努めていきます。

「プール教室は男女別にできないでしょうか」 保健体育は、男女共習が推奨されています。また、体育科が一人のため、男女別習は時間割編成上においても厳しいです。2学期の授業は、安全を第一に考えつつ、男女の距離に配慮しながら進めます。8月11日の岩手日報に、「肌の露出」「体型に配慮」を小見出しとした水着の話題が載っていました。本校では、水着について指定は設けていませんので、長袖ジャケット・ハーフパンツタイプの水着の着用も大丈夫です。様々な泳法を身につけるとともに、水泳の楽しさと安全について学び、豊かなスポーツライフにつなげられることを目指しています。

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

9月22日発行

第7号

文責 中野善文

## 地域学を通して 自主・創造・躍進・敬愛 深まる山形町への想い

今年度からスタートした地域学を通して、生徒はそれぞれに「ふるさと山形」に対するさまざまな思いを募らせ、自ら行動に移しています。

8月11日（山の日）に開催された「白樺植樹」に、本校からは、3年生8名、2年生5名、職員3名、木地谷PTA会長の計17名が参加しました。

「日本一の白樺美林」として山形町のシンボリック存在の白樺林も、いよいよ寿命を迎え危機的状況に瀕しています。しかしながら、地元山形町からの参加者は少なく全体の半数以下で、市内の方々や関連企業のボランティアの方々を支えられています。



白樺とつつじの苗を植樹した後、富士見平で恒例のアピールタイムが催されました。参加した山中生全員が前に登場し、代表して川向駿さんと上平一壮さんが、「ふるさとの宝を大事に守りたい」「地域のために自分たちにできることを取り組みたい」と力強く決意を述べました。

将来、大人になったとき、自分たちで

植えた白樺とつつじを見ながら、仲間と一緒に中学校時代の思い出を語り合ってほしいと思います。そのためにも、この美しい白樺林を、山形町の皆さんで支えていきたいものです。

### 「やまがたビジョン in 山形中」中学生らしい柔軟な発想でプレゼン

これまで、山形総合支所・ふるさと振興課、久慈市役所・地域づくり振興課、岩手大学・広田純一名誉教授様、多くの方々のご指導ご支援の下、講義・ワークショップ・フィールドワーク・企画会議等を重ねながら、人口減少が続く山形町の活性化を願い、自分たちが考えた企画を発表しました。

中学生らしい柔軟な発想でありながら、目的・方法等を明確にした素晴らしい内容で、地域を大切に想う気持ちがとても伝わってきました。

当日は、「やまがたビジョン」組織委員長・副委員長さんにもお越しいただき、発表を聞いていただきました。

この取組と発表が、山形町の豊かな未来につながることを願っています。

柔軟発想で地域を元気に 山形中が企画発表会

久慈市山形町の山形中(中野善文校長、生徒38人)の3年生11人は2日、地域活性化に向けたアイデアを発表する生徒

生徒は3グループに分かれ、町の伝統芸能を集めた『祭りや地元の工芸品などを扱う展示販売会などを提案した。スポーツによる世代間交流を掲げたグループは、さまざまな障害物を突破する人形テレビ番組を模したイベントを廃校舎で開催することを考えた。

生徒たちはワークショップやフィールドワークを経て3番に臨んだ。川村大愛さんの「アイデア次第で新たな取り組みを実現できる」と力を注いだ。

同校は本年度、総合的な学習の時間を使い、地元について考える「地域学」に全学年で取り組んでいる。

岩手日報(2022.9.4)掲載

## 「樺との約束」わたしの主張 西 颯志さん

## 地域の未来を守っていききたい

9月5日（月）に開催された「わたしの主張久慈地区大会」に、3年西颯志さんが出場し見事優秀賞に輝きました。（演題「樺との約束」）

地域学で学んだ人口減少の問題や、地域活性化のために取り組んだ内容をもとに、自分の大切な地域をどのように守っていったら良いのかを深く考え発表しました。

発表の中には、受け継がれてきた伝統や文化が廃れつつある現状とそれに伴う人と人との関係性についての問題提起があり、とても考えさせられました。

本発表については、10月22日に開催される文化祭のステージ発表で聞くことができます。ぜひ、多くの方々に発表を聞いていただき、自分の住んでいる地域の伝統や文化、そして、地域のこれからについて考える機会にしていだければと思います。



## 地域を元気に！ 山中ソーラン いざ出動！

8月21日（日）は、山中ソーランの日でした。

午前中は、「平庭闘牛大会」のオープニングを「山中ソーラン」が華々しく飾りました。

地域学で、2年生が闘牛文化を学習したご縁で、40周年記念特別出演の話が持ち上がり、大会を盛り上げようと2年生の14名の生徒が自主的に参加しました。全国から訪れた大勢の観客の前での発表に、本番前は緊張していましたが、紹介アナウンスを受けて入場した生徒たちは、堂々とした踊りで観客を魅了しました。



後日、会場で観賞された方から匿名で、「生徒の頑張りを讃える」お手紙を頂戴しました。地域のために頑張る姿とその思いが、全国の多くの方々に伝わったようです。この様子は、平庭高原闘牛会が開設しているYouTubeで全国にライブ配信されました。また、「平庭闘牛大会しらかば場所」で検索すると、ご家庭でもご覧いただくことができます。

午後は、山形町の夏を彩るお祭り「ガタゴンまつり」特設ステージで、山中ソーランが躍動しました。昨年は、台風の影響で出演が中止となりましたので、今回3年ぶりの出演となります。例年、3年生の伝統行事としておりましたが、1年生からも出演希望者を募り、総勢15名が特設ステージで躍動しました。

生徒の踊りを観賞している観衆の皆さんの表情は、とても明るい表情で、特にお年寄りの方々は希望の光に包まれたような笑顔でいっぱいでした。



これまで本校の伝統として受け継がれてきた山中ソーランですが、今年も3年生が全校を引っ張り、見事に仕上げてくださいました。

これからも山中ソーランは、地域に元気で希望を与え続ける存在として活躍し続けることを心から願っています。

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

10月19日発行

第8号

文責 中野善文

## 神無月のころ そこはかたなく書きつくる

～ 心に移りゆくよしなしごとども ～

9月末に実施した修学旅行（3年）、宿泊研修（2年）、野外学習（1年）は、コロナ対策をしっかりと講じ、天候にも恵まれ、充実した学習となりました。それぞれの学習の中には、地域学の視点を取り入れるとともに、将来の自分を考える場の設定も工夫しました。

各学年とも、それぞれのスローガン（3年「学業生成」、2年「一心同体」、1年「協力・安全・笑顔」）を達成し、現在はその力を結集し全校で文化祭活動に取り組んでいます。学級・全校で取り組む合唱に加え、全校で創り上げる演劇は、役者、大道具・小道具、照明、音響、衣装・メイクのそれぞれの係に分かれて、互いに意見を出し合い、一人ひとりが存在感を発揮しながら取り組んでいます。スローガンの文字通り「彩光・最高」の文化祭になることを大いに期待しています。

さて、10月になり秋の深まりを感じるようになりました。10月は、和風月では神無月と呼ばれています。全国の神様が出雲に集まり、いろいろなことを相談しているのかもしれませんが。現在、私たちの周りでは困難な出来事がさまざま起きています。戦争の脅威、宗教をめぐる問題、新型コロナウイルス感染症対策と経済活性化の両立等、課題は山積し「神頼み」だけでは解決することはできません。必要な情報の整理、的確な状況把握、自分なりの考えと判断等により、自ら道を切り拓いていかなければなりません。中学校では、そのための素地を授業や行事等を通して身につけていくのです。

### 己の道を切り拓き 日本中に元気を与えた燃える闘魂

幾多の困難に立ち向かい己の道を切り拓き続けた人として、去る10月1日に逝去されたアントニオ猪木氏を全校朝会で紹介しました。

猪木氏が13歳のときに、貧しい生活から抜け出そうと、家族でブラジルに移住しました。しかし、暮らしは楽にならず、彼は朝早くから夕方まで、コーヒー農場で過酷な労働を強いられます。その代わりに、たくましい体と発達した運動神経を得た猪木氏は、ブラジル遠征にきていた力道山の目に留まりスカウトされ、プロレスラーとして歩み出します。

いろいろな苦難を乗り越え、新しいプロレス団体を設立し、現役ボクシング世界チャンピオンのモハメドアリとの異種格闘技戦をはじめ、数々の名勝負を繰り広げ、プロレス黄金期を築きました。

引退後は、政治家に転身し、国の反対を押し切って（このことについては様々な評価があります）、湾岸戦争中のイラクで捕虜になった日本人の救出や、国交が途絶えてた北朝鮮との外交に尽力しました。2020年に難病に冒されたことを公表し、病気と闘う姿をテレビ越しに日本中に届けました。訃報に際しては、世界中から彼の死を悼む声が寄せられました。

燃える闘魂アントニオ猪木氏は、亡くなった今でも、空の上から私たちに声をかけているかもしれません。「みなさん元気ですか。元気があれば何でもできる。1・2・3 ダア～！」と。

### 道

（引退試合で読んだ詩）

この道を行けばどうなるものか。  
危ぶむなかれ 危ぶめば道はなし。  
踏み出せばその一足が道となり、  
その一足が道となる。  
迷わず行けよ 行けば分かるさ。

#### <名言>

人生は挑戦の連続である  
夢を持って！でかければでかいほどいい  
人生は挑戦の連続である  
コンプレックスをバネに飛躍することができる

# 山形再考! 函館の魅力から地域資源の活用を考える

3年生が修学旅行で訪れた函館は、豊かな自然に加え、歴史と浪漫あふれる街並み、海の幸をはじめとするグルメ等により、さまざまな観光ランキング調査において、常に上位に入っています。修学旅行の前に、「函館の魅力地域学の視点で考えて、山形のこれからは生かしてほしい」と生徒に伝えました。それぞれにどんなことを感じ考えたかは、まだ聞くことができていませんが、わたしなりに感じたことをお伝えします。



## 【考察】函館に対抗しうる山形の資源とその活用について

### 1 景観の美しさ

函館山に対抗する景観として、平庭高原の白樺林とつつじの群生が挙げられます。これらについては、現在注目を集めている闘牛が、「つつじ場所（6月）」「しらかば場所（8月）」と名付け、季節ごとの自然美と関連付けていますが、闘牛がない時でも人を呼び込むためのPRの工夫を考えなければなりません。また、引き続き植樹を続けて景観を守っていくことが必須条件であることは言うまでもありません。



### 2 ご当地グルメ

函館には、海鮮丼やラッキーピエロといったご当地グルメがあります。これらに対抗するものとして短角牛、平庭バーガー、そして無形文化財登録に本校が一役買ったまめぶがあります。



「いわて短角牛」は、県北地域を中心に生産され、澄んだ空気と水、豊富な牧草に恵まれた広大な草原でのびのびと育てられています。しかし、この「いわて短角牛」の全国の肉用牛頭数に占めるシェアはわずかで、生産者の高齢化や後継者不足により、非常に希少な牛肉となっています。この短角牛を使ったおいしい料理やハンバーガーが、山形にあればいろいろと食べられるということが県内外に広まれば集客率が高くなるかもしれません。ただし、そのためには、短角牛を育てる人や環境が今以上に整うことも課題と言えます。

### 3 歴史と浪漫

函館は新選組鬼の副長・土方歳三最後の地。鎖国時代に開国した歴史をもち、明治維新後の文明開化の名残が感じられます。では、山形には？どんな歴史が思い浮かぶでしょう。

山形には、野田街道塩の道の宿場町、そして、荷物を運んだ短角牛・闘牛の歴史があります。平成31年の盛岡振興局による研究提案では、この塩の道が盛岡を過ぎて沢内から奥羽山脈を抜け新潟に至る長大な交易路を形作っていたと考え、その背景には、現在の山形に代表される牛方の能力が高かったことが大きく影響していると述べています。

「高低差のある山道を滞りなく荷駄を運ぶためには、牛がお互いの優劣を自覚していることが必要とされ、最強牛を先頭に立てると後続の牛は従順にその牛に従った。闘牛はそのため必要な仕事であった。野田街道を行き来した牛は非常に能力が高く、特に新潟方面に牛そのものを売っていたという。新潟県長岡市の山古志などに闘牛文化が栄えたのは、山形村の牛方が持ち込んだためとされる。」



この歴史を物語にし、ヒットさせたら多くの観光客が訪れるかもしれません…。(希望)



川村生徒会長

に全校で心をひとつに



中野校長先生

最高な瞬間(とき)です。アイオライトは

# 「ベストオフベスト」輝いた最高の瞬間

久慈市立山形中学校 校報  
 学目標 自主・創造・躍進・敬愛  
 やまどり

第22号  
 令和4年11月2日(水)  
 文責：奥 秀樹

あいつが発表の一番手は英語暗唱発表です。一年・清水川結央さん、二年・田中彩遥さん、三年・川村大愛さんがそれぞれ発表し



彩遥さん バックに日本語訳を投映しました

して臨み、それぞれの持つ力を発揮して活気あるものにしたという思いが込められています。文化祭のスタートは開催セレモニーです。校長先生、生徒会長の川村大愛さんから

個人総括を紹介しました。①事前取り組みについて②文化祭当日について③今後・みんなへ一言

市や県の大会で高い評価をいただいたりしているものでもありました。(次号へつづく)



颯志さん「櫻との約束」

ました。続いて私の主張では、三年・西颯志さんが発表しました。どの発表も、これまで

## ↓個人総括↓

### 1年生 個人総括

◆空◆①分からないことは、同じ担当の先輩に聞いて行動できた。声を響かせられるように何度も練習できた。②ミスをした時もあったけど、最後までやり切れた。③コミュニケーションをしっかり取り、明るく活動したい。お疲れさまで



◆大閣◆①合唱を頑張ることができた。技術で作った木製ティッシュケースを組み木にして完成させることができた。②落ち着いて行動できた。③合唱を頑張りたい。◆煌魁◆①先輩や先生の話聞きながら落ち着いて活動できた。②緊張せずに、自分の役目を最後までやりきることができた。③来年は自分達が先輩をサポート

して後輩へも教える役目なので、自分から行動して優しく接していきたい。

◆音耶◆①本番に向けて自分の役割を確認してから練習をした。②合唱も劇も練習以上に良い発表ができるように、自分の仕事に集中して取り組んだ。③文化祭で学んだことを活かして今後の行事を頑張りたい。

◆重仁◆①劇と作品作りをがんばった。②合唱と劇ををがんばった。③文化祭がとても楽しかった。今後は、数学の勉強をがんばりたい。

◆慧◆①見通しを持ち、日々の練習で目標立てて練習できた。短い期間だったけど合唱も大成功することができた。②初めての文化祭



だったけど、練習の成果を発揮して全力で取り組んで大成功で終わらせることが

できた。③この経験を来年、再来年に生かしたり、日常生活でもついた力を生かして生活したい。



◆綺々◆①家でセリフの練習や、動き、舞台袖に戻るタイミングや舞台に出るタイミングを取り組みました。②最初は緊張していたけど、舞台上がって緊張がほぐれ、最後は笑顔で終わることが出来ました。③あと2回の文化祭があるから頑張りたい。

◆寧々◆①技術作品の「埋め木」が難しかったけど、上手に作る事ができた。習字も上手いった。集中して取り組みをすることができた。②劇は動きに気を付けて演技をすることができたので、文化祭を成功させることができた。③皆で協力して劇を作ることができたので、これからも協力

して取り組みなどを成功させたい。

◆三稀◆①初めてメイク・衣装係をやったが、役者に「〇〇持ってきてね」などしっかりと指示を出すことができた。②合唱は、今まで練習してきた成果を本番で発揮できた。③文化祭当日まで、学年みんなで協力して練習ができたので、これからも、みんなと協力



して何事にも挑んでいく。◆結央◆①劇の取り組みでは、先輩方と一緒に協力しながら大道具をつくる事ができた。自分たちで文化祭を作り上げる楽しさを味わうことができた。②英語弁論、指揮、大道具などしっかり役割を果たすことができた。全校合唱で気持ちよく歌えた。③来年の文化祭では更に良い学級合唱にしたい。

# ♪ 毎日の喜びと悲しみを抱きしめながら 一步一步前へ ♪



下向友紀先生

(前号の続き) 英語暗唱・弁論の次は合唱祭です。伴奏は、全日本合唱コンクール岩手県大会でもピアノを弾いていただいた下向友紀先生です。学年合唱では、一年生は「あさがお」二年生は「HEIWAの鐘」三年生は「聖者の行進」を歌いました。どの学年も練習の成果が伝わってくる合唱でした。続いて特設合唱部の発表です。下向先生や山中の先生方も加わって「宇宙戦艦ヤマト」を熱唱しました。最後は全校合唱です。下向先生の伴奏で、「前へ」「夕暮」を披露しました。全校生徒の想いが伝わる合唱となりました。(次号へ)

久慈市立山形中学校校報

学校目標

自主・創造・躍進・敬愛

第23号

令和4年11月10日(木)

文責：奥 秀樹

## 3年生 個人総括

◆大輝◆①全校のみんなで協力し、最高の劇と合唱にしようと、頑張った。②合唱はあまり良くなかった。劇は、自分なりに役になり切って演技できたと思う。③劇に関しては、その役がどのような役なのかを想像したり、どうすれば面白くなるかを考えたりなどして自分たちの劇を作れるよう頑張っていた。合唱は声はとてもきれいなので音量を上げられるよう頑張っていた。期待しています。この文化祭で学んだことをこれからの人生に生かしていきたい。

◆駿◆①期間はそんなに長くなかったけど、時間がある時には少しでも作業したり、確認しあったりして取り組むことができた。②間違ったところはカバーし合ったり、声を掛け合ったりしてできた。合唱は、練習してきた以上の合唱だったと思うし、劇は1人ひとりが輝いていたと思う。大きな行事は終わったので、今回の見通しをもって活動することなどの力を今後の活動に生かしていきたい。

◆勢那◆①時間が少なく色々な場所で急いでいたけど、それでもみんな笑顔で真面目にやっていたのでよかつた。

た。②みんなから笑顔があふれ演技も演出などもほぼ完璧に作業を行っていたのでよかった。③自分はすごく楽しめた文化祭だったので、これからもみんなで協力して色々な活動をしてほしい。

◆大愛◆①演出の朱希さんや座長の颯志さんに確認してもらい、シーンが際立つような音を探した。タイミングや音の大きさの調整を中心に音響の練習もした。合唱では、楽しく歌うことを第一に、リズムや笑顔も意識して歌った。生徒会では、どれだけ全校の気持ちを高められるか考えながら活動した。開会のあいさつは全校に加え、来ていただいた方々へ伝えたいことを話した。②本番で間違ってしまったが、役者の人や同じ係の人が気にせずに進めてくれてとてもありがたかった。③この文化祭の成功は、仲間がいて全校が協力し合えたからで、そのおかげで会長としての仕事や文化祭活動に力が入ったのだと思う。本当にありがとうございました！

◆朱希◆係や先生と打ち合わせ、確認をとりながら、皆で協力して劇の準備をすすめた。合唱では、アドバイスを出し合って、より良いものにした。②学年合唱では、音程が少し高くなってしまい、

悔しかったけど、皆で動きを合わせ、笑顔で歌い終わることができた。特設では、同じパートの人の声を聴きながら歌えたり、最後の動きも合わせられてよかった。劇では、役者や係など周りを見て確認しながら、進めることができた。ハプニングやミスもあったが、気にせずスムーズに進め、みんなが笑顔で終わって良かった。③早めに予定を立てることや、自分からコミュニケーションをとることなどを大切にしたい。来年は成果や課題を活かして、みんならしい文化祭にしてほしい。

◆ルミナ◆①役者のメイクを考えたり実際にメイクするのが難しかった。②メイクが思い通りにならない部分もあったが、冷静にできた。③3年間メイク・衣装ができて良かった。

◆颯志◆①劇団がはじめて1つになったが、連携をしっかりとって活動できていた。リーダーシップを発揮しながら活動できた。学習合唱委員会を中心に全校での合唱の完成度を高めることができた。②皆が焦ることなく気持ちも高ぶりすぎることなく、いつも通りの自分たちを観客に届けることができた。合唱も自分達のペースやタイミングなどを大切にし、緊張感を持ちな

がら楽しく歌うことができた。③3年生の皆さん文化祭お疲れさまでした。皆がそれぞれの役割を行って全体での活動を支えてくれてとても助かりました。ありがとうございました。2年生は、皆で一致団結しながら頑張ってください。1年生は、自分から進んで行って、後輩を引っ張り3年生を支えてほしい。

◆暖◆①皆で協力して大道具・小道具の準備をすることができた。そして、余裕を持ってやることが出来た。合唱練習では、皆の声が綺麗に合わせられるように練習することが出来た。②車椅子で迎えることになったが、しっかりと劇と合唱を発表することができた。③アクシデントがあっても、どうにか発表する力を生かしたい。今年より良い文化祭を期待しています！

◆樹◆①照明で背景の色などを決めるのに皆で話し合っていて、場面にあった色ができたのでよかった。②学年合唱では、練習ではリズムがとれなかったけど、本番ではうまくできた。特設合唱では、ヤマトの最後をきれいに決められたのでよかった。③難しいこともたくさんあったけど、楽しいことがたくさんあったし最後は笑顔で終わることができたのでよかった。



(前号からの続き)  
ステージ発表の最後は演劇です。劇団おてんばフレンズが演じる「白雪姫?」は、ピー

ターパンやフック船長、白雪姫や継母、シンドレラ等おとぎ話の登場者が入り乱れて巻き起こす物語です。

座長の西颯志さん、演出の宅石朱希さんを中心に、二十四名のキャスト、十九名のスタッフが全力で取り組み、

# 全校演劇「白雪姫?」

久慈市立山形中学校 校報  
 学目標 自主・創造・躍進・敬愛  
 やまどり  
 第24号  
 令和4年11月14日(月)  
 文責: 奥 秀樹

楽しいパロディ劇をユモアたっぷりに演じました。最後は、客席の皆さんから大きな拍手をいただきました。

## 2年生 個人総括その巻

◆羽来◆①一生懸命ガンバった。②放送などをしっかりできた。③来年は今年度の文化祭を超えていけるように頑張っていこう!

◆遙音◆①どうすれば良い文化祭に出来るか考えながら取り組めた。②今まで教わってきたことを生かして取り組むことができた。③先輩から教わってきたことや物を生かしながら来年に向けて頑張っていく。

◆彩遥◆①学校だけでなく、家でもセリフを覚えたり、ピアノの練習をがんばったりした。②みんなで最高の劇、合唱などをつくり上げることができたと思う。みんなが主役の文化祭

だった。③切り替えをもっと素早くしたい。これからも、みんなの力を合わせて頑張ろう!



◆紅春◆①劇で、誰のメイクをすればいいのか、どのメイク道具を使えばいいのか分けて整理したり、確認することができた。②バタバタしてしまったが、自分の担当の人のメイクを丁寧に素早く行うことができた。③文化祭を通して素早く動く力が身についたと思うので、これからも頑張りたい。

◆夢◆①3年生の指示をしっかりと聞いて一つひとつ集中して活動することができた。②アドバイスをもらった所などに気を付けて合唱や劇が出来た。③これからは2年生が中心で考える活動が多くなるので後輩を引っ張っていけるように頑張りたい。



◆春稀◆①全校で協力することができた。自分の仕事に責任をもって丁寧にこなした。②程よい緊張感で、楽しく合唱・劇ができた。彩光の文化祭になった。③こ

れからは3年生のようにみんなを楽しませて、引っ張っていけるようになりたい。これからも全校で協力して、頑張ろう!

◆亮介◆①道具の確認や背景のタイミングまで確かめ、通してスムーズに行えた。②今までの練習通りサポートをすることができた。③今度は自分たちが全体を引っ張っていくのでより良い文化祭を作りたい。

◆悠斗◆①自分が不安な所はしっかりと確認して準備をすることができた。②自分の仕事に責任を持って文化祭活動を行い、成功させることができたので良かった。③3年生の先輩のようにみんなを引っ張っていきたい。

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

11月16日発行

第9号

文責 中野善文

感動

## 心動かされる瞬間との出会い

～ 山形中学校が誇る文化「演劇・合唱」～

先月実施した文化祭について、後日多くの来賓や保護者の方から、お褒めの言葉をいただきました。学校運営協議委員の方からは、「心のこもった合唱と全校で創り上げた演劇は、とても素晴らしかったです。生徒と先生方が心を一つに取り組んできた様子が伝わってきました。」と本番に至るまでの過程も含めて評価していただきました。



文化祭を振り返ったときに、わたしはふと自分の中学生の頃を思い出しました。練習中に喧嘩したこと、喧嘩の後にみんなが心をひとつにして頑張ったこと、合唱と演劇の後に会場中から拍手喝さいを浴びたこと、終わった後みんな喜び合ったこと…。改めてそのときの体験が、今の自分を形成していると感じました。きっと、生徒の皆さんにとっても、今回の文化祭は、かけがえのない思い出として、いつまでも心に残り続けることと思います。



山形中学校の合唱は、市合唱交流会でも高い評価を得ました。文化祭で披露した「夕暮」は、お互いの声を聴き合いお互いを引き立てる美しいハーモニーを奏でました。これこそが他校に誇れる本校の伝統であり宝なのだと感じました。また、1曲目の校歌も非常にすがすがしく、その歌声には、学校教育目標である「自主・創造・躍進・敬愛」の精神が感じられました。講評では、このように校歌を素敵に歌えるのは、学校や地域を愛している気持ちがあればこそと絶賛されました。今後も「人の心を動かす」素敵な合唱を、多くの人に届けられることを願っています。

心動かされる瞬間との出会いは、その人の心を豊かにしてくれるものだと思います。

昨年度から、読書ボランティアの高屋敷テル子さん下國恵美子さんに「朝の読み聞かせ」をお願いしています。先月、2年生と3年生で実施した際に3年生の読み聞かせに、思わず聞き入ってしまいました。読まれていたのは、「ころろ」（文：香山リカ、絵：益田ミリ）という絵本です。あらすじは、次の通りです。



小学生のユカさんは、校長先生の「人のところにキズをつけてはいけません」というお話を聞いて、ころろのキズについて疑問に思います。転んでひざをすりむいたユカさんに、

突然不思議なバンソウコウが貼り付いて、今まで気づかなかった友達のころろの中や、キズついたころろへの接し方について教えてくれます。ユカさんは、ころろのキズとその治し方について理解を深めていくのでした。

全校朝会の際に、生徒の皆さんにも考えてもらいました。「無意識のうちに人を傷つけていませんか？ 心に傷を負っている人が周りにはいませんか？ もししたら、どうしますか？」と。

心の優しい山中生は、きっと「自ら気づき考え行動してくれる」そう信じています。

# 山形町が誇る芸術 （ ） 間もなく開演 （ ）

## <おらほーる劇場>

本校が誇る演劇文化は、山形町が誇る芸術文化「おらほーる劇場」とともに発展してきたのでしょうか。間もなく公演となる「おらほーる劇場」には、山形総合支所職員の方とたくさんの山形小の児童が参加しています。まさに、地元の手作り感満載の舞台演劇です。

脚本を手掛けた こむろこうじ さんとは、震災当時に行政職として一緒に仕事をした間柄です。そのこむろ先生からの出演オファーを受けて、今回の第 14 回公演「水族館円舞曲」に出演することになりました。演技力に自信はありませんが、岩手の復興教育と山形町の発展に少しでも貢献できればと日々の練習に励んでいます。

久慈市民おらほーる劇場 第14回公演  
作：こむろ こうじ 演出：小笠原 克哉

# 水族館円舞曲

アクアリウム・ロンド  
- Over Again -

入場料  
一般 800円 (当日1,000円)  
高校生以下 400円 (当日 500円)  
(未成年者無料)  
前売り券は、予約が可能です。

2022年11月  
1日目 19日(土) 17:30開演 18:00開演  
2日目 20日(日) 13:30開演 14:00開演

会場 おらほーる (久慈市山村文化交流センター)

作： 間咲 早  
■ 運行バス：公演当日は、久慈地区合同庁舎から無料バスを運行します  
合同庁舎発 1回目 19日 17:00 2回目 20日 13:00 ※ご利用の際は、事前に「おらほーる」までご連絡ください。  
プレイガイド アンバーホール/おらほーる (山形県) リカーフアサヒ/ふるさと物産センター/へんまち産直館  
■ 主 催/久慈市教育委員会 ■ お問い合わせ/おらほーる(久慈市山村文化交流センター) 0194-72-3711



小学生の演技が、とても素晴らしいです。ぜひ、応援してあげてください。

- |       |       |       |                |
|-------|-------|-------|----------------|
| 木地谷 淳 | 阿部 大地 | 梶谷 祥吾 | 近藤李奈子          |
| 富澤 秀明 | 中平 真央 | 西 天音  | 畠山 鈴           |
| 澤口 朋花 | 皆川 風花 | 丹野 愛永 | 二ツ神聖也          |
| 小渡桜咲月 | 小渡寧心音 | 小渡美愛桃 | 木地谷一歌          |
| 佐々木唯奈 | 大西 健一 | 西 映子  | 中野 善文<br>(順不同) |

- STAFF
- 作 : こむろこうじ  
演出 : 小笠原克哉  
音楽 : 高井 翼  
ディレクター : 木地谷 淳  
音響 : 下田 敏子  
照明 : 柳久保千春  
舞台装置 : 富澤 秀明  
衣装 : 小室 圭稔  
メイク : 土橋久美子  
制作 : 久慈市教育委員会

この舞台を通して、震災当時の記憶が蘇るとともに、被災地復興のために岩手全体が力を合わせて取り組んだことを思い出しました。この記憶を風化させることなく語り継いでいくことの重要性を再確認しました。

今回の公演でも、木地谷 PTA 会長の演技が観客を魅了することとします。また、演技を引き立てるための音響を事務職員の 下田さんが務めます。

市の観光施設「もぐらんぴあ」がどのように再建されたか、飼育されていた魚たちはどうなったのか、久慈市民の皆さんに知ってほしいと思います。

### おらほーる劇場「水族館シリーズ」

初演「水族館狂詩曲」は、東日本大震災が発災した同年の 11 月に復興途上の現状を再現して上演。以降、脚本が県民芸術祭を受賞した他、新宿花伝舎での朗読劇上演や、小学生用に書き直された作品が「Over Again」として、県内各地の小学校で上演される。

第 2 作「水族館変奏曲」は、平成 28 年、台風 10 号で久慈市が甚大な被害があった年の上演で、もぐらんぴあが再建されるまでを描き、上演する。当作品は、評価が高く、アンバーホールでも再演される。

今回第 3 作「水族館円舞曲」は、震災当時の様子にコロナ禍の現在を重ね、閉塞感を断ち切る作品として上演する。

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

12月23日発行

第10号

文責 中野善文

## 年の瀬を迎えて 2022 を振り返る

令和4年が、間もなく終わろうとしています。12月1日に発表された〈今年の流行語大賞〉には、世相を反映する各分野の言葉が選ばれ、年間大賞には、日本プロ野球最多ホームラン記録を樹立した「村上様」が選ばれました。この記録は、世界の「王貞治」選手が1964年に打ち立ててから、実に58年ぶりの快挙です。しかも、この記録は、今季最終戦の最後の打席という劇的な場面で誕生し、日本中を大いに沸かせました。

惜しくも、岩手ゆかりの「大谷ルール」「令和の怪物（佐々木朗希）」は大賞には選ばれませんでした。同じ東北の仙台育英高校野球部須江監督の「青春って、すごく密なので」が選考委員特別賞に選ばれ、嬉しい気持ちになりました。この言葉を借りて、「三密は避けて、心は密に」と、本校では「コロナ禍でも青春を謳歌し、仲間との心の結びつきを大事にしよう」と呼び掛けています。

キーウ  
きつねダンス  
宗教2世  
国葬儀  
知らんけど  
てまえどり  
悪い円安  
スマホショルダー  
ヤクルト1000  
村上様

### 🏠 「山中：心に残る行事・出来事トップ10」

今学期の反省において、生徒一人ひとりに「心に残る行事や出来事」を3つ挙げてもらい、集計しました。上位の結果は、以下の通りです。

1位「文化祭」、2位「学年行事」（3年：修学旅行、2年：宿泊研修、1年：野外学習）、  
3位「体育祭」、4位「新人戦」、5位「闘牛大会」、6位「部活動」/「生徒会レク&総会」  
/「社会体験WEEK」、9位「地区陸上」/「授業」/「ガタゴンまつり」

1位は、今年から全校が一つのチームになって演劇に取り組んだ「文化祭」でした。2位には、それぞれの学年の絆を深めた「学年行事」、3位には、紅白に分かれて熱戦を繰り広げた「体育祭」が選ばれました。全体の特徴として、地域を応援する活動「山中ソーラン」（闘牛大会・ガタゴンまつり）、「白樺植樹」、そして「地域学」を選んだ生徒もあり、学校の行事だけでなく、「地域への貢献活動」を選んだ生徒が多くいたことが挙げられます。

### ⚽ サッカーワールドカップの快挙

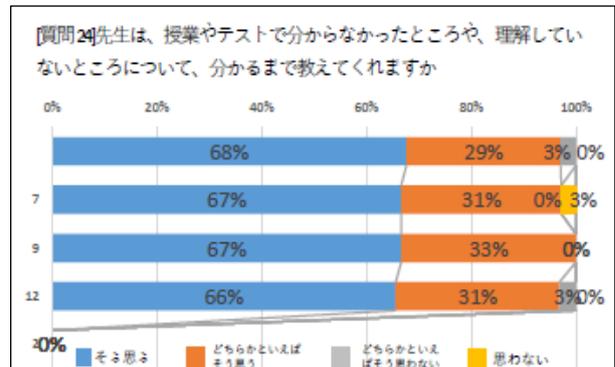
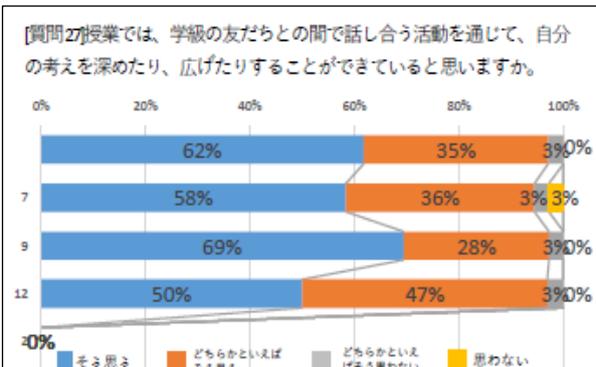
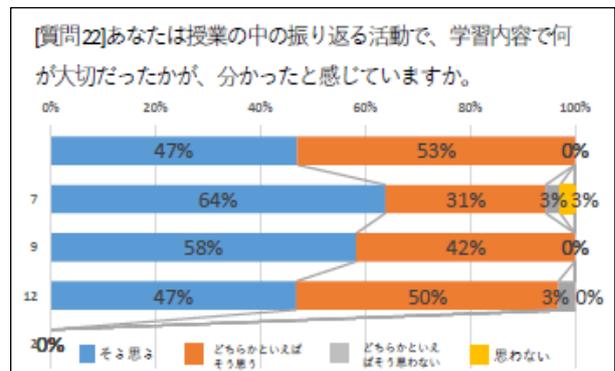
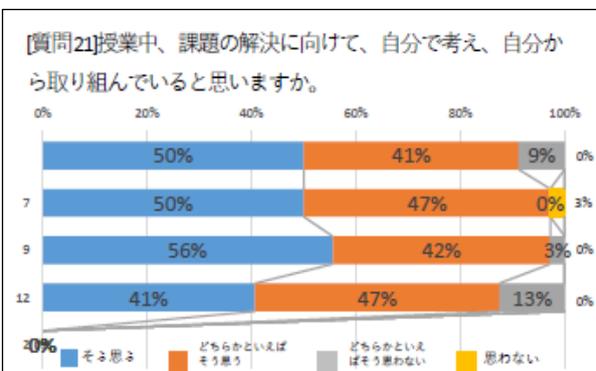
流行語大賞の選考が2週間遅かったら、「ドーハの歓喜」「ブラボー」が選出されていたかもしれません。日本代表の快進撃は、日本中に感動を巻き起こしました。優勝候補のドイツ・スペインに勝利した日本は、選手一人ひとりの特長がいかに発揮され、選手全員が勝利のために献身的にプレーしました。試合の興奮が落ち着いた後、ふと山形中学校の生徒の顔を思い浮かべました。足の速い生徒、大きな声であいさつを交わす生徒、相手の話を丁寧に聞いてあげる生徒、本を読むのが好きな生徒、たくさんの優れた個性をもつ生徒の顔が浮かんで来て、みんなの個性が集まって、ひとつの目標に向かって結束したとき、また新たな山形中学校の文化が生まれると強く感じました。今後もそれぞれの個性を大事にしながら、発展し続ける山形中学校を築いていきます。来年も「がんばれNIPPON!」「がんばれ山形中!」

# 確かな学力を「授業&家庭学習」の両輪で！

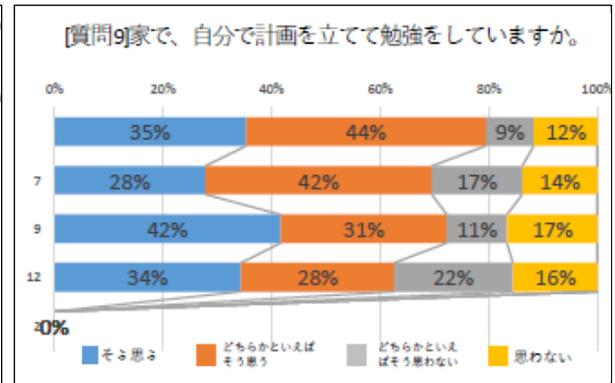
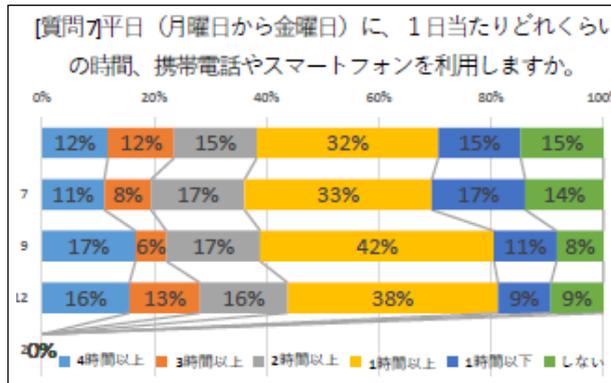
本校の先生方は日々の授業を大切にするとともに、より良い授業へと改善するために校内研究に取り組んでいます。今年度は校内研究の柱に「対話」を位置づけ、対話の中で「考えを比較し、再考し、さらに深めたり広げたり」しながら、「思考力・判断力・表現力」を高められるように授業を進めています。

もう一方で、ICT（タブレット等）の活用により、資料の読み取りや考えの比較検討を通して、課題解決的に学習を進めています。生徒の活動を見ていると、タブレットを活用したほうが、自分の考えを整理したり表現しやすいようです。その利点を生かしつつも、「書くこと」の力を落とさないことにも留意しながら、ICTの活用を効果的に進めています。

今年度は、自己の学習・生活の様子を振り返るために、隔月でアンケートを実施しています。その結果からも取組の成果が表れているように思います。（四捨五入により100を超える箇所あり）



課題と感じているのは、「平日のスマートフォン利用時間」が増加傾向にあること、「計画的な家庭学習」が低下していることです。今年度から、帰りの会で家庭学習の計画を考えるように指導していますが、引き続き個に配慮した指導を継続していきたいと思います。



冬休みは、それぞれの計画に沿って家庭学習が進められるように支援していきます。

学力については、「まなびフェスタアンケート」および「CRT検査」（11月実施）の結果をもとに、改めてお知らせしたいと考えています。

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

1月13日発行

第11号

文責 中野善文

## 🐰 兔のように Jump Up ↑ 山中 🌟 ～『まなびフェスト』アンケート結果を生かして～

明けましておめでとうございます。いよいよ山形学校中2023がスタートしました。

今年は卯年ということで、兔にあやかって個人・山形中学校とも Jump Up の年になることを願っています。そこで、成長のためのひとつの目安として、本校「まなびフェスト」の評価結果及び考察をお知らせしますので、今後の取組に生かしてほしいと思います。

下の表は、肯定的評価（4段階評価の4と3）の数値を基にして作成したものです。評価結果を1学期と令和3年度とそれぞれ比較しながら、要因と今後の取組について示しました。

### 1 まなびフェスト重点項目（肯定的評価4と3の合計を基に割合を出したものです）

#### （1）学期評価（1学期 ⇄ 2学期）

項目	1学期			2学期		
	保護者	生徒	教職員	保護者	生徒	教職員
1 学習に集中して取り組む生徒（80%以上）	62.2%	92.1%	100%	69.4%	86.5%	100%
2 家庭学習に積極的に取り組む生徒(80%以上)	68.4%	92.1%	75.0%	75.0%	89.2%	71.4%
3 学校生活が楽しいと思う生徒（80%以上）	81.6%	76.3%	91.7%	83.3%	83.8%	100%
4 明るいあいさつができる生徒（80%以上）	92.1%	97.4%	75.0%	97.1%	91.9%	71.4%
5 規則正しい生活をする生徒（80%以上）	81.6%	89.5%	91.7%	80.6%	86.5%	85.7%
6 部活動に積極的に取り組む生徒（90%以上）	76.3%	86.8%	83.3%	88.0%	100%	85.7%

保護者・生徒80%以上

保護者・生徒80%未満

保護者・教職員80%未満

#### （2）年間評価（R3⇄R4）

項目	R3年平均		R4年平均		
	保護者	生徒	保護者	生徒	教職員
1 学習に集中して取り組む生徒（80%以上）	75.2%	91.8%	65.8%	89.3%	100%
2 家庭学習に積極的に取り組む生徒(80%以上)	65.9%	86.9%	71.7%	90.7%	73.2%
3 学校生活が楽しいと思う生徒（80%以上）	78.8%	83.5%	82.5%	80.1%	95.9%
4 明るいあいさつができる生徒（80%以上）	88.3%	89.4%	94.6%	94.7%	73.2%
5 規則正しい生活をする生徒（80%以上）	74.0%	82.3%	81.1%	88.0%	88.7%
6 部活動に積極的に取り組む生徒（90%以上）	84.5%	92.3%	82.2%	93.4%	84.5%

## <考察>

### 1「学習に集中して取り組む生徒」

学期・年間評価とも**保護者評価が低く、教職員評価が高い結果**です。この結果に注目すると、学校での学習は集中して取り組んでいるが、家庭ではできていないことが考えられます。また、2学期の生徒評価が下がっていますが、昨年度も同様の結果でした。おそらく、学習内容が徐々に難しくなってきたことが影響していると考えられますので、一人ひとりの理解の状況を確認しながら指導を進めていきたいと思えます。

### 2「家庭学習に積極的に取り組む生徒」

生徒評価は学期・年間評価とも90%前後と高いですが、**保護者・教職員評価は70%前後**です。1の結果も踏まえ、帰りの会での家庭学習の指導について改善を図ります。その日の学習の振り返りをもとに、家庭学習の内容を決定し実行に移せるよう支援します。

### 3「学校生活が楽しいと思う生徒」

学期・年間評価とも、**保護者・生徒・教職員評価が80%を超えました**。

先生方の丁寧な指導の成果（授業改善・学級経営・教育相談・部活動指導 etc）と捉えます。一方で、否定的回答が2割弱いることを忘れずに、今後の指導を行います。

### 4「明るいあいさつができる生徒」

学期・年間評価とも、**保護者・生徒評価は90%を超え、昨年度を上回る結果**です。

一方で、教職員の評価は惜しくも80%を下回っています。また、後期生徒総会の年間反省においても、課題点として「あいさつ」が挙げられていました。

「山中のあいさつは、本当に良いのか？」2学期末に行われた「リーダー研修会」の校長講話で話題にしました。下校時のあいさつの様子等を伝えながら、改めて「良いあいさつ」とはどのようなあいさつか、その実現に向けた取組を考えてみるように助言しました。

いずれ、あいさつは社会の基本です。生徒だけでなく、わたしたち大人も礼節をしっかりと身につけるように職員も一緒に考えます。

### 5「規則正しい生活ができる生徒」

学期評価・年間評価とも、**保護者・生徒・教職員評価が80%を超えています**。

家庭での生活リズムが整っていることは、健康面だけでなく学習面でも大事ですので、引き続き指導をお願いします。隔月の校内生活アンケート結果からは、スマホ等のネット利用の時間が増加傾向にあります。家庭のルールを決めて利用するようお願いします。

### 6「部活動に積極的に取り組む生徒」

目標の90%に保護者・教職員評価は届きませんでしたでしたが、2学期は、それぞれの肯定的評価が高まり、**生徒評価は100%**でした。子どもたちの意識の高まりが伺えます。本校では、「生徒減」及び「働き方改革」の課題を抱えながらも、**先生方が意欲的に取り組んでくださっています**。現在、地域移行に向けての取組が重要になってきていますので、山形オールジュニアスポーツ少年団及び各協会の協力をいただきながら、生徒が目標に向かって取り組めるよう体制を整えていきたいと考えています。

重点項目の多くが、昨年度よりも評価が高まり目標値を達成しました。3学期は、学習面を中心に最後のまとめをしっかりと行いますので、ご家庭のご理解ご協力をお願いします。なお、重点項目以外については、次号でお知らせします。

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

1月20日発行

第12号

文責 中野善文

## 『まなびフェスト』アンケート結果を生かして<Part 2>

3学期が始まって1週間が経ちました。各学年とも、まとめにふさわしい活動が進められているようです。前号(11号)に引き続き、「まなびフェスト」アンケートの集計結果及び考察についてお知らせします。今後のまとめに生かしていきたいと思えます。

### 1 重点項目以外の集計結果(肯定的評価4と3の合計を基に割合を出したものです)

#### (1) 学期評価(1学期 ⇄ 2学期)

項目	1学期			2学期		
	保護者	生徒	教職員	保護者	生徒	教職員
1 自分にはよいところがある	86.8%	73.7%	100%	83.3%	75.7%	100%
2 将来の夢(目標)をもっている	71.1%	71.1%	91.7%	63.9%	72.2%	71.4%
3 学校行事に積極的に参加している	92.1%	92.1%	100%	91.4%	94.6%	100%
4 自分の考えをしっかりと表現できる	76.3%	76.3%	75.0%	85.7%	89.2%	78.6%
5 相手の立場や気持ちを理解した言動ができる	84.2%	92.1%	91.7%	86.1%	94.4%	92.9%
6 学校の様子をよく話す	92.1%	84.2%	100%	91.7%	83.8%	100%
7 先生に相談しやすい	86.8%	73.7%	83.3%	86.1%	75.7%	85.7%
8 情報発信を適切に行っている	92.1%	92.1%	100%	88.9%	97.2%	100%
9 保護者と意思疎通を行っている	89.5%	100.0%	100%	88.9%	89.2%	100%
10 いじめ防止に取り組んでいる	97.3%	97.4%	100%	86.1%	91.9%	100%

#### (2) 年間評価(R3⇄R4)

項目	R3年平均		R4年平均		
	保護者	生徒	保護者	生徒	教職員
1 自分にはよいところがある	81.2%	57.10%	85.1%	74.7%	100%
2 将来の夢(目標)をもっている	61.2%	75.30%	67.5%	71.7%	81.6%
3 学校行事に積極的に参加している	92.9%	96.50%	91.8%	93.4%	100%
4 自分の考えをしっかりと表現できる	75.2%	82.40%	81.0%	82.8%	76.8%
5 相手の立場や気持ちを理解した言動ができる	78.9%	91.70%	85.2%	93.3%	92.3%
6 学校の様子をよく話す	84.7%	83.50%	91.9%	84.0%	100%
7 先生に相談しやすい	69.4%	66.70%	86.5%	74.7%	84.5%
8 情報発信を適切に行っている	82.3%	88.30%	90.5%	94.7%	100%
9 保護者と意思疎通を行っている	82.3%	90.60%	89.2%	94.6%	100%
10 いじめ防止に取り組んでいる	86.9%	91.80%	91.7%	94.7%	100%

保護者・生徒80%以上

保護者・生徒80%未満

保護者・教職員80%未満

## 2 考 察（集計結果の要因と今後の取組について）

### （1）自分にはよいところがある

年間生徒評価が17%高まり、目標に近づいてきました。生徒は、各活動の振り返りにおいて自分の成長を確認し、教師は生徒の良いところを認め・褒めることを大事にしてきた成果と捉えます。また、今年度から取り組み始めた「地域学」で、地域の良さを再確認するとともに、地域貢献活動に積極的に参加したことが、自己肯定感を高めたものと捉えます。

### （2）将来の夢（目標）

令和3年度と比較すると生徒評価はやや低くなりましたが、内訳を見ると2年生は1学期と変わらず1年生と3年生は積極的肯定が増えています。保護者評価は、学年が下がるにつれて評価が低くなっていますが、生徒はそれぞれ自分なりに将来を考え成長しているようです。

### （3）学校行事への積極的参加

保護者・生徒とも90%超の高い評価です。2学期は、文化祭に向けて全員が心一つにして取り組みました。それぞれの係の力が結集し、素晴らしい演劇が完成しました。また、全校・学年・特設のそれぞれの合唱も心に響く素晴らしいハーモニーを奏で感動的でした。

### （4）自分の考えをしっかりと表現

2学期は、生徒・保護者とも評価が80%を超えました。今年度は校内研究テーマを「対話」とし、互いの考えの交流を通して「考えを広げ深める」学習を進めてきました。教職員評価も80%に近づいており、今後も対話を通して考えを表現する力を高めていきたいと考えます。

### （5）相手の立場や気持ちを理解した言動

保護者・生徒・教職員とも80%を超える高い評価を得ています。3年生を中心とした集団活動の中で、互いを思いやる気持ちが育っています。また、道徳や学活において、豊かな人間形成や集団における合意形成を大事に指導しています。一方で、何気ない言葉が相手を傷つけたり誤解につながる場面が見受けられますので、丁寧に指導していきたいと思えます。

### （6）学校のことをよく話す

5同様に、保護者・生徒・教職員とも80%を超える高い評価を得ています。中学生は、思春期で親に話さなくなる時期でもありますが、非常に良好な関係にあることが伺えます。

### （7）先生に相談しやすい

昨年度に比べて保護者が17%、生徒が7%高くなりました。令和3年度から改善に向けて、教育相談や生徒との関りを大切にしてきた取組の成果と捉えます。引き続き、生徒の声に丁寧に耳を傾けながら、より相談しやすい環境を整えたいと考えています。

### （8）情報発信を適切に行っている

校報、校長通信、学級通信、保健通信等、学校及び生徒の様子について情報を発信しています。保護者・生徒とも90%近い評価で、昨年度よりも高い評価となっています。

### （9）保護者との意思疎通

保護者・生徒とも90%近い評価で、昨年度よりも高い評価となっています。ただし、積極的否定の方もいらっしゃいます。理由について職員間で十分に検討し、今後の対応に生かすように心がけています。今後ご批判を真摯に受け止め経営の改善に努めていきます。

### （10）いじめ防止の取組

年間評価は、保護者・生徒・教職員とも90%を超える高い評価となっています。ただし、2学期の保護者評価が下がっていることから、いじめに該当する事案がないかを教職員で確認しました。確認した事案が該当するのかわかりませんが、気持ちのすれ違いによる互いの不適切な言動が確認されましたので改善を図りました。

重点項目同様に、多くの項目において昨年度評価及び目標値を上回りました。ご家庭のご支援に、改めて感謝申し上げます。2月には、学校関係者評価を実施します。

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

2月22日発行

第 13 号

文責 中野 善文

## それぞれの春に向かって

## 確かな成長 一歩ずつ前へ

厳しい寒さも峠を越え、三寒四温を繰り返しながら一歩ずつ着実に春へと近づいています。

春という季節は、よく「別れの春」「出会いの春」「スタートの春」と呼ばれ、一年の中でも、大きな節目の季節だと言えます。そのような中で、生徒一人ひとりが、今年度のまとめと来年度に向けての準備をそれぞれに行い、希望に向かって歩んでいます。

### 将来について真摯に考え歩み出した3年生

3年生は、それぞれの進路実現に向けて厳しく長い冬を耐え忍んできましたが、いよいよ調整の時期を迎えます。受験に先駆けて、校長面接も実施しています。コロナの影響で今年度も面接試験はありませんが、実施には次の二つの理由があります。

一つ目は、義務教育を終えて社会に出るにあたり、面接の指導とその経験が必要なこと。二つ目は、校長として生徒の長所を伸ばし将来についてのアドバイスを贈ることにあります。面接を通して、一人ひとりが自分と向き合い、将来のことや自分の長所と短所をしっかりと捉えていること、3年間の中で胸を張って頑張ったと言える素敵な思い出を作っていること等が伝わってきてとても感慨深かったです。

### 伝統を引継ぐとともに新たな文化創造を目指す1・2年生

1・2年生は、3年生に対する感謝の気持ちを予餞会で伝え、今後の自分たちの決意を表明しました。また、山形中学校の伝統を受け継ぐ者として、部活動や合唱活動にも意欲的に取り組んでいます。2月15日の全校朝会では、下館春稀生徒会長から、次の二つのことについての呼び掛けがありました。

- ①今世界でどんなことを起きているか知っていますか。2月6日に起きたトルコ大地震により多数の犠牲者が出ています。復興の支援のために、生徒会で募金を行います。ぜひ、皆様のご協力をお願いします。
- ②来年度、山形中学校が久慈地区を代表して岩手県中学校総合文化祭のステージ発表を行います。先日の代議員会で発表内容を演劇に決定しました。全校で取り組んでいきましょう。

今までにない新たな取組の始まりです。生徒会執行部を中心に頑張ってください！

**<深い絆で結ばれたトルコと日本の関係>** 平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、世界の20を超す国々が救援隊を日本に派遣してくれました。しかし、福島第一原発の事故の深刻さが明らかになると、撤退する国が続出しました。そのような中、宮城県の被災地の現場に踏みとどまり、最前線で活動を続けたのがトルコです。そこには、両国間の深い関係があったのです。

**<エルトゥールル号遭難事件>** 1890年に和歌山県串本町の沖合で沈没したトルコ船の乗組員を、現地の日本人が献身的に救助しました。このことからトルコは日本への感謝の気持ちを持ち続け、イランイラク戦争のときには、自国民より日本人を優先して救出してくれました。そのときの言葉です。「私たちはエルトゥールル号の借りを返すだけです」 両国の絆を大切に！



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。

2023トルコ・シリア  
地震救援金

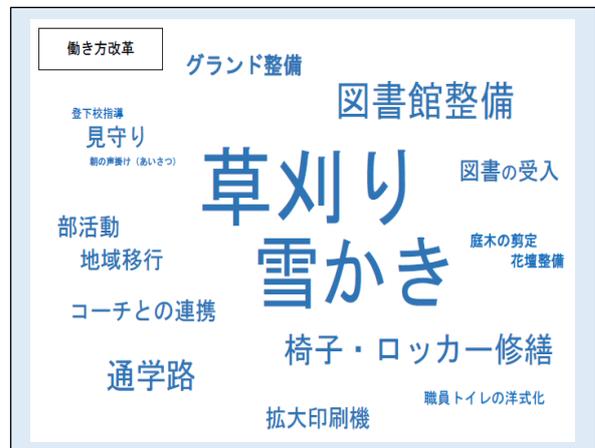
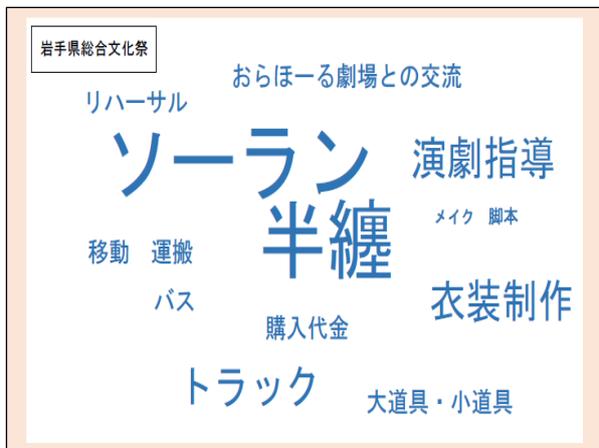
## 第3回学校運営協議会 熟議 来年度の学校支援

今年度から発足した「久慈市立山形中学校学校運営協議会」の第3回目が終了しました。第1回目では、学校経営方針についての承認、第2回では、前期学校評価の報告と講義「地域とともにある学校づくりの推進」を行いました。そして、第3回目の今回は、後期・年間学校評価の報告と熟議「来年度の学校支援について」を行いました。

熟議の議題は、次の2つです。

1つ目は、「岩手県中学校総合文化祭ステージ発表について」、2つ目は、「働き方改革の推進について」です。どちらの議題も、先生方から「来年度の学校運営上支援いただきたい内容」についてアンケートをとり、希望の多かったものを取り上げました。

<図1> 「岩手県中総合文化祭演劇について」 <図2> 「働き方改革の推進について」



### 1 「岩手県中学校総合文化祭」

- ソーラン半纏を全校生徒分揃えられないか  
小学校のように、全戸会員になってもらい会費を集めたらどうか  
地域コミュニティ事業に申請してみてもどうか（ガタゴン祭り山車運行への参加）
- リハーサルを含めた荷物運搬用のトラックを準備できないか  
市役所、総合支所から借りる
- 演劇指導をどなたかにお願いできないか  
専門的な方にお願いするのが良い P T A会長にお願いする
- 大道具、衣装等の資金繰りをどうするか  
地域に寄付を募ってはどうか やまがた版クラウドファンディング  
必要があれば大道具の製作に社員を派遣する おらほーるから借りられるものは借りる

### 2 「働き方改革の推進」

- 校舎前、階段、給食搬入路、通学路等の除雪の負担を軽減できないか  
スクールバスを冬季間は校舎前まで上げる 総合支所に除雪を依頼する
- 校庭整備、草刈りの負担軽減ができないか  
P T Aに甘えても良いのでは→作業の回数を増やす 軽トラックでならしてもらう
- 本の受け入れを含めた図書館整備をお願いできないか  
ボランティアを募集する 学校支援コーディネーターとの連携

長時間にわたるご協議により、運営委員の皆様からたくさんのご助言をいただきました。ご助言をもとに、来年度も引き続き「地域と共に発展する学校」を目指して参りますので、保護者の皆様並びに地域の皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

# 白樺と虹と太陽と

令和4年度 校長通信

3月22日発行

第14号

文責 中野善文

## 希望 それぞれの未来に向かって

### 惜別 ～ 卒業, 進級, 転出・異動 ～

春はよく、「別れの春」「旅立ちの春」と言われ、3月は感傷的な気持ちになってしまいます。

3月10日に挙行了した卒業証書授与式は、今年度最後の授業でしたが、とても心のこもった感動的な儀式となりました。

卒業証書を受け取る3年生は、この3年間の様々な思いが胸中に去来していたのでしょ、とても感慨深い表情でした。

今年度の3年生は、創立40年を迎える節目の年に、新たな歴史の1ページを刻みました。



「地域とともに成長する学校」を目指して始めた「地域学」において、山形町の魅力や課題を分析し、課題解決に向けた企画をグループごとに協力して考え、フィールドワークを行い、山形ビジョン委員会の皆さんにプレゼンしました。

これまで、地域活動（白樺植樹やガタゴン祭り）に積極的に参加してきた3年生の皆さんが、山形の未来を明るくしてくれるものと期待しています。

卒業式のフィナーレは、山形中の宝として守り続け発展させてきた合唱でクライマックスを迎えました。全校合唱「時を越えて」は、1・2年生から3年生へ、3年生から1・2年生へとそれぞれの感謝の気持ちが一つとなった心に染み入る合唱となりました。3年生が歌う「つながる空」と最後の呼びかけは、これまでの中学校生活に対する万感の思いと保護者への感謝、そして旅立ちの決意が込められた堂々とした合唱でした。

3年生11名は、全員希望する高校に見事合格し、それぞれの道へと進めます。卒業生の前途が洋々たること、卒業生の意志を下級生が引き継ぎ、山形中学校を更に発展させることを心から願っています。ご卒業と進級、それぞれの次のステージでの活躍を大いに期待しています。



## 新任地での活躍を！ 感謝の気持ちを込めて

このたびの人事異動で、4名の教職員が新任地へと異動することとなりました。

岩渕 知也	本校勤務5年 英語・国際理解担当・卓球部 一関市立巖美中学校へ
藤原 葉月	本校勤務3年 国語・研究担当・バレーボール部 盛岡市立巻堀中学校へ
大崎 孝子	本校通算3年 音楽・合唱指導・卓球部 退職 久慈市立宇部中学校
下田 敏子	本校通算2年 事務全般 退職 九戸村立長興寺小学校

これまでのご指導に感謝し、  
新任地での活躍を心から  
願っています。ありがとうございます。

## 3.11 あの日を忘れない 支えられる人から支える人に

### ～ あの日何が起き、何を感じ、どう行動したのか～

東日本大震災発災から12年が経過しました。本校では、この日（3月11日）を忘れることなく、岩手の復興教育が掲げる「いきる・かかわる・そなえる」についての学びを深めるために、復興教育講演会を毎年行っています。

今年度は、3月9日（木）に釜石市立唐丹中学校・元校長 藤舘茂先生を講師にお招きして、「あの日何が起き、何を感じ、どう行動したのか」についてお聞きしました。

当時この学校は、市の避難場所に指定されていたことから津波が来ることは想定していませんでした。大津波警報が発令され、校庭から高台にある国道45号の道路まで、地域住民と一緒に避難を決断しました。高齢者が避難してきたので、男子中学生が手を引いて避難を助けてあげました。避難所は狭く、中学生は外で焚火に当たりながら寒さをしのぎ、お湯を飲んで心と体



海軍の救援物資を中学生が率先して運搬し、自分のことよりも周りのことを優先して行動しました。卒業式のために制服を集めようと呼び掛けをしましたが、揃えることができず運動着での授与式となりました。その後の学校生活は、プレハブの仮設校舎で送ることとなりましたが、コッパンや牛乳を食べられる日常の幸せを感じました。また、地域の方々の温かな支援を受けながら、不便さはありましたが感謝の気持ちをもちながら前に歩み続けました。

藤舘先生の思いのこもったお話に、生徒も職員もそれぞれに思いを巡らし、災害に対する心構えや人としての生き方・あり方などを改めて考える貴重な機会となりました。校長のわたしが感じたことは、もしも身の回りに困難な状況が生じたとき、山形中学校の生徒は間違いなく誰かのために進んで行動するにちがいないという思いでした。

今回、前任校でのご縁でご講演をお引き受けいただきました藤舘先生に感謝するとともに、「いきる・かかわる・そなえる」ことを実践する生徒を育てられるように、今後も復興教育を推進していきたいと思います。以下、生徒の感想の一部を紹介します。

- 僕たちにとって生きる、生き抜くということがどれ程大切なことなのかが分かりました。そして、思いやりの心が凄く大事なのが分かりました。
- 世の中を悲しみの渦が巻きこんでいたあの日。だけど、人々は立ち上がった。自分のためじゃなく誰かのために。誰かのために動けるって、すごいことだと思った。
- 震災当時3歳で、停電になりガス、電気、水道が使えなくなったことを覚えています。沿岸部の震災被害について触れる機会があまりなかったのでお話を聞いて衝撃を受けました。
- 自分のことで精いっぱいになりそうなのに、自分のことを自分で守れるように行動しつつみんながみんな人のことを考えていて、人の優しさや温かさがすごいと思った。
- 生きることから逃げてはいけない、命の尊さ、生きている今を踏ん張ることが亡くなってしまった方々や自分を支えてくれている方々に対しての一番の敬意なのかなとも感じました。
- 唐丹中の中学生の方々と同じような対応や厳しい生活に耐えられるだろうかと考えた。今の生活や自分の置かれている状況が恵まれていて、当たり前じゃないのだと改めて感じました。
- 「誰かのためなら頑張れる」というあたたかい思いやりの心に感動した。今、ウクライナやトルコだけでなくいろいろな国で大変なことがあるかもしれない。私たちはそれに目を向けて、少しでもできることがあればやっていきたい。